

2019年2月

「東京レインボープライド
2018 来場者アンケート調査」
報告書

駒澤大学文学部社会学科社会学専攻 松信ひろみ研究室

目 次

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）	5-11
第1章 アンケート集計結果	
Q1 東京レインボープライド 2018 を知ったきっかけ	12
Q2 東京レインボープライド（パレード）への参加回数	12-13
Q3 参加目的	13
Q3SQ1 Q3 で最も主要な目的	13
Q4 会場での催しの満足度	14-15
Q4SQ1 会場での催しに満足しなかった理由	16-18
Q5 レインボーウィーク期間の他の催しへの参加予定	19
Q7 LGBT 関連の団体や活動への参加状況	19-20
Q7SQ1 LGBT 関連の団体や活動に参加しない理由	20-21
Q8 学校での LGBT 教育の経験の有無	21-22
Q8SQ1 学校で経験した LGBT 教育の内容	22
Q8SQ2 学校での LGBT 教育の時期	22
Q9 職場での LGBT 研修の経験の有無と内容	22
Q9SQ1 職場で経験した LGBT 研修の内容	23
Q9SQ2 職場での LGBT 研修の対象者	23-24
Q10 学校での LGBT 教育への希望の有無	24-25
Q10SQ1 学校で希望する LGBT 教育の内容	25
Q10SQ2 学校での LGBT 教育の望ましい時期	25
Q11 職場での LGBT 研修への希望の有無	25-26
Q11SQ1 職場で希望する LGBT 研修の内容	26
Q11SQ2 職場での LGBT 研修の望ましい対象者	27
Q12 商品購入の基準（その製品の会社が LGBT に理解があるか否か）	27
Q13 職場選択の基準（LGBT に理解がある企業か否か）	28-29
Q14 新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店の利用	29
Q15 日本で必要だと思われる同性カップルの法的保障制度	30
Q16 男女のありかたについての意識	30-31
Q17 化粧品の使用	31-32
Q18 化粧品の購入方法	32
Q18SQ1 Q18 で購入する理由	32-33
Q18SQ2 Q18 で購入することで困ること	33

Q18SQ3	理想とする化粧品の購入先	34
Q19	回答者の年齢	34-35
Q20	回答者の居住地	35
Q21	回答者の家族構成	35
Q22	回答者の職業	36
Q23	LGBTであるか否か	36
Q24 a	LGBTであることでの不便・不自由（職場・学校での人間関係）	37
Q24 b	LGBTであることでの不便・不自由（近所づきあい）	37
Q24 c	LGBTであることでの不便・不自由（施設利用）	38
Q24 d	LGBTであることでの不便・不自由（様々な保障制度）	38
Q25	パートナーの有無	38-39
Q26	同性パートナーシップ証明書の利用への意向	39
Q26SQ1	同性パートナーシップ証明書を利用しない理由	40
Q26SQ2	同性パートナーシップ証明書を利用する理由	40-41
Q27	パートナーとの関係で望むこと	41
Q28	回答者の身体的性と性自認	41-42
Q29	回答者の性的指向	42
Q30	回答者が自身のセクシュアリティを認識した時期	42
Q31	回答者のカミングアウトの状況	43
Q31SQ1	回答者がカミングアウトしている人	44

第2章 アンケート項目の「その他」の具体的内容と自由記述

Q1	「その他」	45
Q2	「その他」	45
Q3	「その他」	45
Q3SQ1	「その他」	46
Q4SQ1a~e	「その他」	46-47
Q5	「その他」	48
Q6	具体的記述内容	48-49
Q7SQ1	「その他」	49
Q8SQ1	「その他」	50
Q9SQ1	「その他」	50
Q9SQ2	「その他」	50
Q10SQ1	「その他」	50
Q11SQ1	「その他」	51

Q11SQ2 「その他」	51
Q15 「その他」	51
Q17 「その他」	51
Q18 「その他」	52
Q18SQ1 「その他」	52
Q18SQ2 「その他」	52
Q18SQ3 「その他」	52
Q20 「その他」	53
Q21 「その他」	53
Q22 「その他」	53
Q26SQ1 「その他」	53-54
Q26SQ2 「その他」	54
Q27 「その他」	54-55
Q28 「その他」	55
Q29 「その他」	55
Q30 「その他」	55
Q31SQ1 「その他」	55-56
自由記述 (感想・意見)	56-64
(参考資料) 調査票見本	65-79
あとがき (来場者アンケートを実施して)	80

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）

本報告書は、2018年5月5日、及び6日に代々木公園イベント広場（東京都渋谷区）にて開催された「東京レインボープライド 2018」のステージイベント、ブース、パレードに
来場・参加された方々を対象として、特定非営利法人東京レインボープライド（共同代表：
山縣真矢・杉山文野）の協力を得て、駒澤大学文学部社会学科社会学専攻松信ひろみ研究室
（社会学演習Ⅰ）が実施した「レインボープライド 2018 来場者アンケート」の集計結果で
ある。本調査は、この度の催しに対する意見や感想を伺うことを主要な目的としているが、
加えて LGBT の方々の日ごろの生活や意識についても伺っている。なお、本調査は、日本
社会学会倫理綱領及び、日本家族社会学会倫理綱領に基づき、作成、実施し、「駒澤大学『人
を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を得て実施された。

本調査の調査方法及び調査票の回収状況と結果の概要は以下の通りである。

1. 調査方法と対象者

- ① 「東京レインボープライド 2018」に来場された方を対象として、当日の会場入り口にてアンケート調査への協力を呼びかけ、協力してくださった方を対象とした。その場で自計式にて回答。調査票は 1174 票配布し、回収できたのは 408 票である（回収率 34.7%）。うち有効回答は、406 票（有効回答率 99.5%）である。
- ② 「東京レインボープライド 2018」の HP に①と同じ内容の web アンケートへのリンクを掲載し、5月5日から4ヶ月の回答期間を設けて、回答してもらった。回収票は 228 票であった。
- ③ 本調査のデータは①と②をあわせた形で集計している（計 634 票）。

2. 本調査の結果の概要

以下では、イベントに関する意見、及び LGBT の方々の生活にかかわる意識等を中心として、本調査の概要を検討する。

- ① 今回初めて来場したという回答者は 49.2%、50%、2 回目が 19.2 %と昨年度と比較すると大きな差は見られなかった（昨年度は初めてが 50%、2 回目が 18.8%、一昨年は初めてが約 46%、2 回目が 22%であった）。来場者の約半数は始めて来場する傾向があるといえる。一方で割合は多くはないものの、4 回目 7.6%（昨年度は 5.7%）、5 回以上が約 11%（昨年度は約 10%）と毎年来場する人も増えている。このことは来場のきっかけからも読み取れる。来場のきっかけをみると、「以前から来場している」という割合が約 32%（昨年度 31%、一昨年 30%）を占めている。次いで多いのは、「友人・知人の紹介」が約 16%（昨年度約 19%、一昨年度約 16%）、「HP などインターネットのサイトを見て」が約 16%（昨年度は 15%）、「Twitter をみて」が約 11%（昨年度は 13.4%、一昨年度は約 16%）となっており、以前か

らの来場者の割合がやや増加傾向にあり、初めて来場するきっかけとしては、「友人・知人の紹介」や「HPなどのインターネットのサイトをみて」という割合が比較的多い傾向がみられた。

- ② 来場の目的として最も多かったのは、「ブースを見たり買い物をしたりするため」が約 52%（昨年度は約 59%）であり、また、第二位の理由である「LGBTに関する様々な情報を得るため」は、約 46%（昨年度は約 54%）であった。昨年度のアンケートでは、「主な目的を3つまで」回答してもらったが、今年度は「主な目的全て」を回答してもらう形式をとった。そのため、その中で「一番の目的」を一つ回答してもらったところ、一番割合が高かったのは、「LGBTに関する様々な情報を得るため」（約 19%）であり、次いで「パレードに参加するため」（約 16%）、「ブースでの買い物や見学のため」（約 15%）、「LGBTの仲間とお祭りを楽しむため」（約 14%）となった。
- ③ 会場での催し（ステージ、ブース、パレード）と会場に出店していた飲食店に対する満足度は「パレード」に関する満足度が最も高く約 60%が「満足している」と回答しており、「ブース」に関しても約 56%が「満足している」と回答している。それに対して、「ステージ」と「飲食の屋台」に関しての満足度は、いずれも「満足している」が約 44%である。飲食の屋台への満足度は昨年度より若干高くなっているものの（昨年度は満足しているが約 43%）、ステージに関して昨年度は満足しているが約 52%であったのに対して、満足度がかなり下がっている。しかし、パレードとブースへの満足度が高くなったためか、「会場全体」への満足度は「満足している」が約 59%（昨年度は約 53%）と昨年度よりも高くなっている。
- ④ 会場での催しと会場に出店していた飲食店に満足しなかった理由としては、「ステージ」については、「混雑していてよくみることができない」が約 59%と最も高く、これは昨年度の約 40%をかなり上回る割合である。次いで「開始時間、終了時間がよくわからない」が約 28%で、これは昨年度の約 27%と違いはなかった。今年度は大物アーティストのコンサートなどもあり、ステージは大変混雑していた。満足度においてステージの満足度が昨年度よりもかなり下回ったのは、これが原因であると思われる。「ブース」については、昨年度最も満足しなかった理由として挙げられていた「通路が狭くて混雑している」は、約 23%（昨年度は 39.6%）と割合が下がり、昨年度は理由として最も割合が低かった「何のブースなのかがわかりづらい」が 38.5%（昨年度約 14%）と最も高い割合となった。昨年度は比較的高い割合であった「出展ブースに偏りがある」は約 18%（昨年度約 26%）と低くなった。今年度は多様なブースの出展があったため、かえって何のブースなのかがわかりづらくなってしまったのかもしれない。「パレード」に関しては、「その他」回答が約 66%昨年引き続き圧倒的に多い（昨年度は約 64%）。こちらで設定した選択肢では、「メッセージ性が弱い」が約 26%と最も高く、昨年度の約 20%、一昨年度の約

14%をかなり上回る割合である。また、「集合場所がよくわからない」という割合は約 15%であり、昨年度の約 11%を上回っていた。「飲食店」に関しては、「食べるスペースが狭い」という割合が約 40%と昨年度に続いて高いものの、昨年度の約 50%よりはかなり低い割合となった。それに対して、昨年度は約 20%とさほど高い割合ではなかった「混雑しすぎてなかなか買えない」が約 40%とかなり高い割合となった。「同じような内容の屋台が多い」は、約 38%と昨年度の約 34%を上回る割合となった。「会場全体」としては、「トイレの数が少ない」が 40%と昨年度に引き続き最も高い割合であり、昨年度の約 38%を上回っている。また、昨年度は約 13%とさほど高い割合ではなかった「ゴミ箱の数が少ない」が約 27%と昨年度のほぼ倍の割合となった。

- ⑤ レインボーウィークの期間に会場以外で行われていた催しに関しては、「そのような催しがあることを知らなかった」という回答は約 18%であり、昨年度の約 20%を下回り、催しの認知度は上がったといえる。しかし、「未定」が約 15%と昨年度の約 17%よりも下回っているにもかかわらず、「いずれも参加しない」が約 45%と昨年度の約 33%を上回り、個々の催しものも参加の割合が全て昨年度を下回っている。
- ⑥ LGBT 関連の団体や活動への参加については、「参加している」が約 28%であり、昨年度の約 31%、一昨年度の 35%を下回った。
- ⑦ 一方、LGBT 関連の団体や活動に参加しない理由としては、「関心はあるが、機会・きっかけがない」が 43%と昨年度 (48%) よりも下がっているものの、次いで「どのような団体や活動があるのかわからない」は、約 21%とこちらも昨年度の約 22%とほぼ変わらず高い割合であった。一方「当事者でないので必要がない」という割合は約 4%と昨年度の約 14%をかなり下回っており、当事者でない方の関心度が高まっていることが示唆される。当事者の方の場合、「まわりにカミングアウトしていないのでできない」が約 11%みられ、昨年度の約 9%を上回っている。LGBT 関連の団体や活動が周知されるようになってきたが、当事者の場合は特に積極的に参加することの難しさが現れているといえるだろう。
- ⑧ LGBT 教育の経験に関しては、受けたことがある割合が約 22%と昨年度の 19%を上回った。具体的に受けた教育の内容としては、「LGBT という言葉に触れた程度」が約 41%と最も高く、昨年度の約 33%、一昨年度の 31%を上回っている。一方で、それ以外の内容は全て減少しており、LGBT 教育の機会は増加傾向にあるものの、具体的な話や説明ではなく、言葉に触れる程度である傾向が指摘される。また、時期としては、大学生が昨年度に続いて最も高く、約 64% (昨年度約 67%) であるが高校生に関しては約 25%と昨年度より高くなっている (昨年度は約 23%)。LGBT 教育は、大学の授業において、概念的な説明を受けるというケースが多いといえるが、若干もっと若い時期に受ける機会も現れてきているようである。

- ⑨ 職場での LGBT 研修に関しては、受けたことがある割合が約 21%と昨年度の 16%と一昨年度の 12%を上回った。また、その内容に関しても、「当事者を招いて経験談などを聞く」が圧倒的に高く、50%と昨年度の約 32%をかなり上回る割合となった。次いで多いのは「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」の約 27%であるが、これは昨年度の約 30%よりも低い割合となった。学校での LGBT とは異なり、LGBT 研修を取り入れる企業では、本格的な研修に取り組むようになってきていることが伺われる。だが、研修の対象者は「社員全員」が 45%と昨年度の 50%を下回り、「一部の社員のみ」が 10%（昨年度約 5%）、「管理職のみ」5%（昨年度約 2%）も若干増加しており、限定的な研修に留まる企業も増えていることが伺われる。
- ⑩ LGBT 教育及び研修に関して希望は、教育に関しては約 96%があったほうがいいと回答しており、昨年度の 95%とあまり変化はない。また、職場での研修は約 88%があったほうがいいと回答しており、こちらも昨年度の約 87%とあまり変化はない。その内容としては、どちらについてもほぼ同じ傾向であり、「当事者を招いて経験談などを聞く」が最も高く、教育では約 51%、研修では約 61%とそれぞれ昨年度の約 43%、約 42%を上回り、研修においてより「当事者の経験談」が求められているといえる。一方で「具体的な事例や現状について説明する」は、それぞれ約 36%と約 32%と昨年度の約 43%、約 48%を大幅に下回っている。また、実施する時期や対象者については、学校教育では「小学生」が約 58%（昨年度は約 53%）、次いで「中学生」が約 51%（昨年度約 32%）である（複数回答のため 100%にはならない）。現在最も多い大学生は望む時期としては約 21%と最も低い割合となっている。研修の対象者は約 88%が「社員全員」と回答している（この割合は昨年度と同じである）。これらはいずれも、現状とは大きく異なっている。教育実施の時期として、圧倒的に「小学生」と「中学生」の割合が高いのは、後述のように LGBT の多くの方が自身のセクシュアリティについて小学校時代に認識し始めていることから、思春期前に多様なセクシュアリティのあり方について知ることが必要であると考えられるからだろう。企業での研修についても、実施するからには全員に行わなければ意味がないということだろう。
- ⑪ 商品購入の基準として、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社か否かを配慮するかという点に関しては、約 6 割が LGBT へ理解がある企業か否かを考慮していないという傾向がみられ、昨年度よりもその割合は増加している（昨年度は考慮しないのは約 55%）。この傾向は、LGBT 当事者か否かで大きな差はみられなかった。
- ⑫ 職業選択の基準として、LGBT に理解のある会社か否かという点に関しては、「やや考える」が約 36%であり、昨年度の 35%とは大きな違いはない。また、「多いに考える」も約 20%と昨年度の約 21%であり、大きな違いはない。とはいえ、会社

を決める際にその企業が LGBT へ理解のある企業か否かを考える割合は 50%超えている。また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者は、60%近くが、職場選択の基準として、LGBT に理解がある会社であるかどうかを考慮している傾向がみられた。また、非当事者も「やや考える」という割合が、昨年度は約 31%であったのに対して、本年度は約 42%とかなり増加している。

- ⑬ 新宿 2 丁目の LGBT の方が多く集まるお店の利用については、LGBT 当事者の方の場合、「ほとんど利用したことがない」割合は約 43%であり、昨年度の約 42%と大きな変化はないものの、一昨年は約 40%であることから、若干であるが利用したことがない人の割合が高くなっている。一方、LGBT 当事者でない方の場合、「ほとんど利用したことがない」割合が約 78%であり、昨年度の 81%よりも減少している。そのため、当事者の方の「年に 1,2 回」、「2,3 ヶ月に 1,2 回」という割合が微減しているのに対して、当事者でない方のこれらの回答は微増している。
- ⑭ 同性カップルに必要なと思う法的保障制度については、「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間での法的婚姻制度」が約 66%と最も高く、これは昨年度の約 60%を上回っていた。また、昨年度は「法的婚姻ではなく、異性・同性にこだわらない事実婚の法的保障」の割合が二番目に高かったが（昨年度は約 21%）、今年度は 12%に下がり、代わって「異性間の法的婚姻制度とは異なる法的なパートナーシップ制度」が約 14%となった（昨年度も約 14%）。
- ⑮ 性別役割分業や「らしさ」などの男女のありかたについて尋ねたところ、従来からの固定的な男女のありかたについて賛成する人の割合は低く、90%程度の人が固定的な男女の役割やあり方について反対の意見をもっていた。ただ、その中でも「既婚女性が働く際は、家事・育児に支障が出ないようにすべきである」という考え方については賛成する割合がやや高く（約 20%程度）、女性が仕事と家庭の両立を図らなければならないという女性の二重役割を肯定する人が少なくないことが伺われる。
- ⑯ 化粧品の購入や利用について尋ねたところ、スキンケア用品は過半数の人が利用しており、ドラッグストアでの購入が約 70%と最も高い傾向がみられた。しかし、値段が安いという利点の反面、自分にあうメイク用品がわからないが約 23%、使用感を試すことができないが約 19%という傾向がみられた。
- ⑰ 回答者の年齢は、20 歳前後と 30 歳前後が最も多く、20 歳代半ばも多い傾向がみられた。昨年度は 40 歳代後半も多い傾向が見られたが、本年は 20 歳代の回答者が多くみられた。また、回答者の居住地については、昨年同様に東京 23 区が約 37%を占めていた。その他の地域も昨年と大きく変わらず、次いで多いのは東京近郊県（千葉、埼玉、神奈川、茨城）が約 34%（昨年は約 35%）、東京都下が約 12%（昨年度は約 11%）、渋谷区は約 4%（昨年度は約 2%）であった。
- ⑱ 家族構成は、昨年同様「一人暮らし」が最も多く、約 30%であった。次いで多かつ

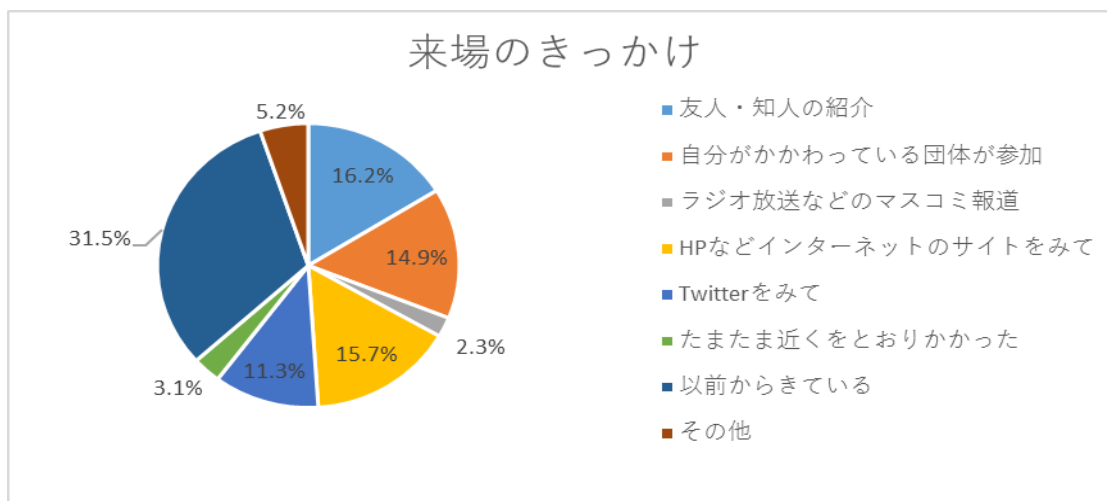
たのは、自分の両親、パートナー、きょうだいと住んでいるという割合で、両親、パートナーはそれぞれ20%~25%程度、きょうだいは10%程度であった。

- ①9 職業については、正社員・正職員が最も多く約47%、次いで、非正規社員・非正規職員と学生がほぼ同じ割合であり、前者が約18%、後者が約17%であった。
- ②0 LGBT当事者か否かに関しては、来場者の約34%がLGBT当事者であり（昨年度は約31%）、当事者でない方は約60%（昨年度は約62%）であった。
- 21 LGBTであるために日常生活で感じる不便や不自由に関して、「近所づきあい」では、「ほとんどない」（約44%）、「あまりない」（約25%）と不便や不自由を感じることはないが、「職場や学校での人付き合い」では、「ほとんどない」は約14%にすぎず、「あまりない」という回答が約52%、「ときどきある」が約23%であり、身近な人間関係では、不便を感じることもある傾向が伺われる。「施設利用」や「保障制度」に関しては、「ほとんどない」と「あまりない」を合わせると60%から70%となり、不便や不自由を感じることはない傾向が伺われる。
- 22 同性パートナーシップ証明書の利用については、「必ず利用する」が約11%と昨年度の約14%を下回ったが、「たぶん利用する」は約48%であり（昨年度約45%）、合わせると利用への意向が50%程度であり、昨年度と大きな変化はない。また、利用したい理由としては、「当然の権利である」が最も多く約56%（昨年度57%）、次いで「パートナーであることを公的機関から証明してもらうことがうれしい」約46%（昨年度約41%）、「職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから」約40%（昨年度約40%）と「パートナーや子どもの病院関連のことで困ったことがあったから」約42%（昨年度約38%）であった。また「パートナーと住まいを探すのに困ったことがあったから」が約35%（昨年度約28%）であった。「パートナーや子どものことで困ったことがあった」「パートナーと住まいを探すのに困ったことがあった」という理由が昨年度よりも増加している。一方、利用しない理由としては、「必要性がない」が41%と最も割合が高く、昨年度の約37%を上回っている。次いで「法律で保障される制度ではないから」が約27%（昨年度も約27%）となっているが、昨年度との顕著な違いは、「周囲に知られたくないから」が約26%と昨年度の約19%をかなり上回ったこと、加えて、「実効力がない」が約26%とこちらも昨年度の約10%を大幅に上回る結果となった。
- 23 LGBT当事者の方に生涯をともにするパートナーができたときに望むことについてきいたところ、最も多かったのが「二人で落ち着いて暮らすことのできる住まいを探す」約80%（昨年度は約53%）、次いで、「両親や家族に二人の関係を理解してもらう」約60%（昨年度は約43%）、「友人に二人の関係を理解してもらう」が約56%（昨年度約41%）であった。「パートナーシップ証明書の取得」は約41%であり、公的な証明書よりもまずは、身近な人間関係の中で二人のことを認めてもらうことを望むという傾向が、今回も確認された。

- 24 来場者の約 60%が LGBT の方であるが、性的指向については、「ゲイ」の方が約 35%（昨年度約 32%）、「レズビアン」の方が約 20%（昨年度も約 20%）、「バイセクシュアル・パンセクシュアル・ノンセクシュアル・アセクシュアル」の方は合わせて約 25%（昨年度は約 33%）であった。性自認については、性別違和をもつ方は約 30%（昨年度は約 49%）であった。また、セクシュアリティ認識の時期は、「中学生」が最も高く約 23%（昨年度は約 15%）、次いで「小学校高学年」約 20%（約 31%）、次いで「小学校低学年」が約 10%（昨年度約 23%）であった。昨年度は小学校高学年の割合が最も高く、今年度は中学生の割合が最も高くなった。セクシュアリティの自認の時期は多様であるといわれており、そうしたことが昨年と本年の相違として現れたと推察される。
- 25 カミングアウトについては、一部の人にだけしている方が約 77%と最も多く（昨年度は約 75%）、カミングアウトしている相手は「学校時代の友人」が最も多くて約 66%（昨年度は約 67%）、次いで「母親」約 39%（昨年度も約 39%）、「パートナー」約 38%（昨年度は約 35%）、「兄弟姉妹」約 31%（昨年度も同じ）であった。親族であっても「父親」は比較的低い傾向にあり、これらの傾向も昨年と同様である。昨年度との違いでは、若干であるが、「会社の同僚」と「会社の上司」の割合が増えている。前者は約 33%（昨年度は約 28%）、後者は約 21%（昨年度は約 17%）である。これは、社会的にも LGBT の方々への認識が広まり、職場でもカミングアウトがしやすくなったということを示しているように思われる。

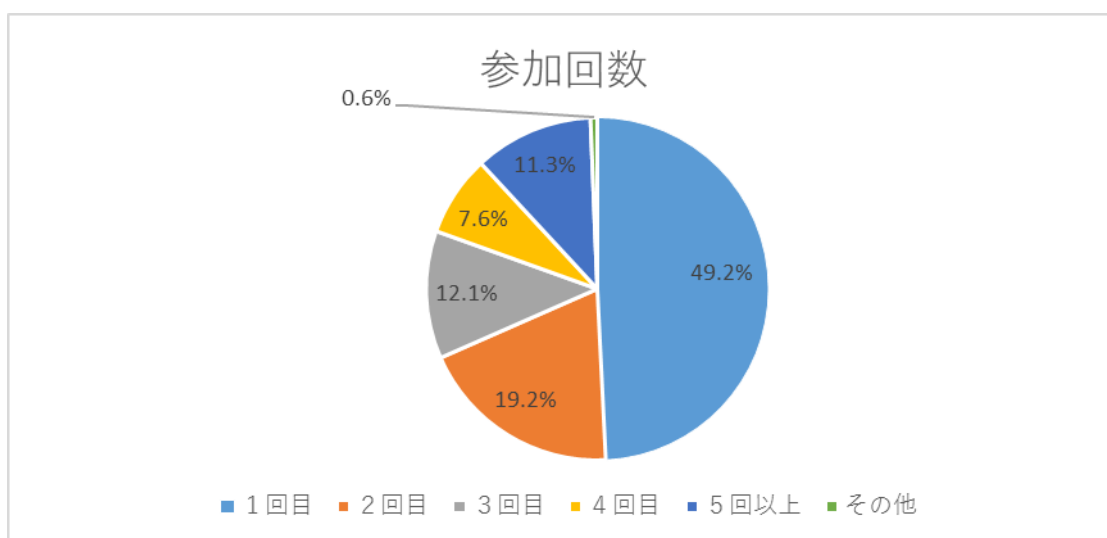
第1章 来場者アンケート集計結果

Q1 今回の東京レインボープライド 2018 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



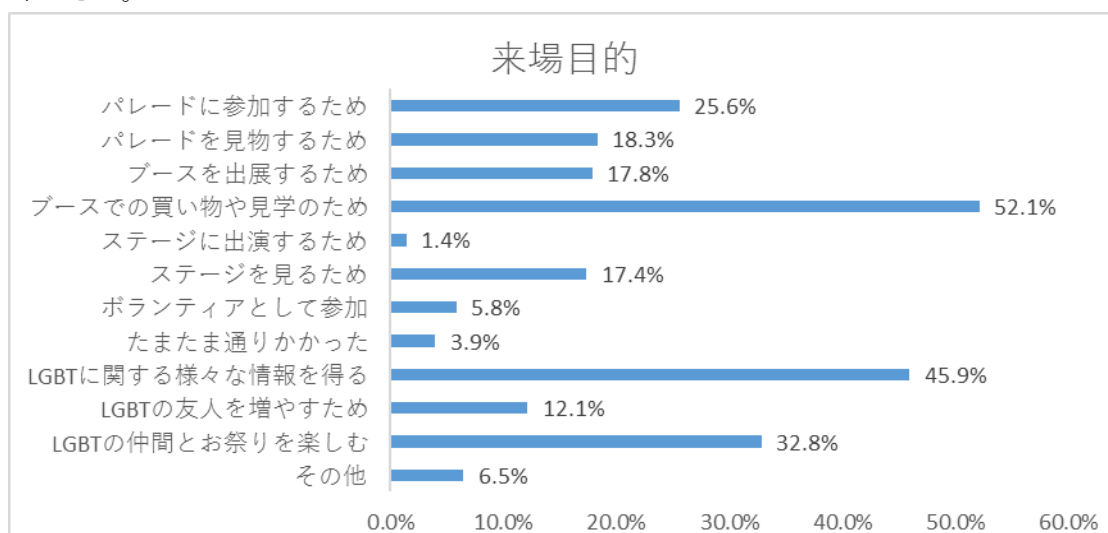
来場のきっかけで、「以前からきている」という回答が 31.5%で最も多かった。以降、多い順に「友人・知人の紹介」という回答が 16.2%、「HP などインターネットのサイトをみて」という回答が 15.7%、「自分がかかわっている団体が参加」という回答が 14.9%、「Twitter をみて」という回答が 11.3%、「たまたま近くをとおりかかった」という回答が 3.1%、「ラジオ放送などのマスコミ報道」という回答が 2.3%という結果になった（「その他」の具体的な内容は別途記載）。

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



今回の来場が「1回目」という人が49.2%と一番多かった。それ以降、多かった順に「2回目」が19.2%、「3回目」が12.1%、「5回以上」が11.3%、「4回目」が7.6%という回答になった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

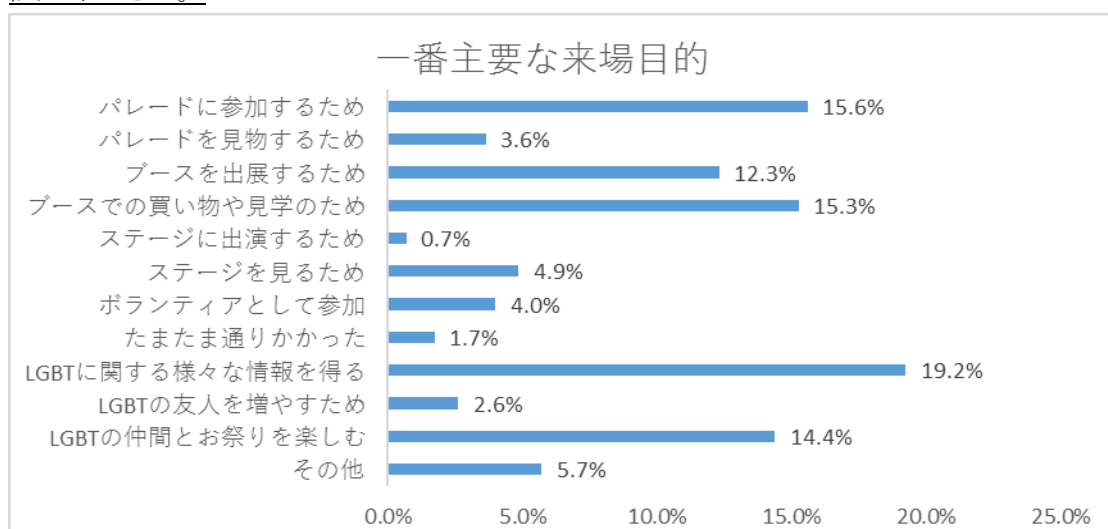
Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、あてはまる番号全てに○をつけてください。



(複数回答であるため、合計は100%にならない)

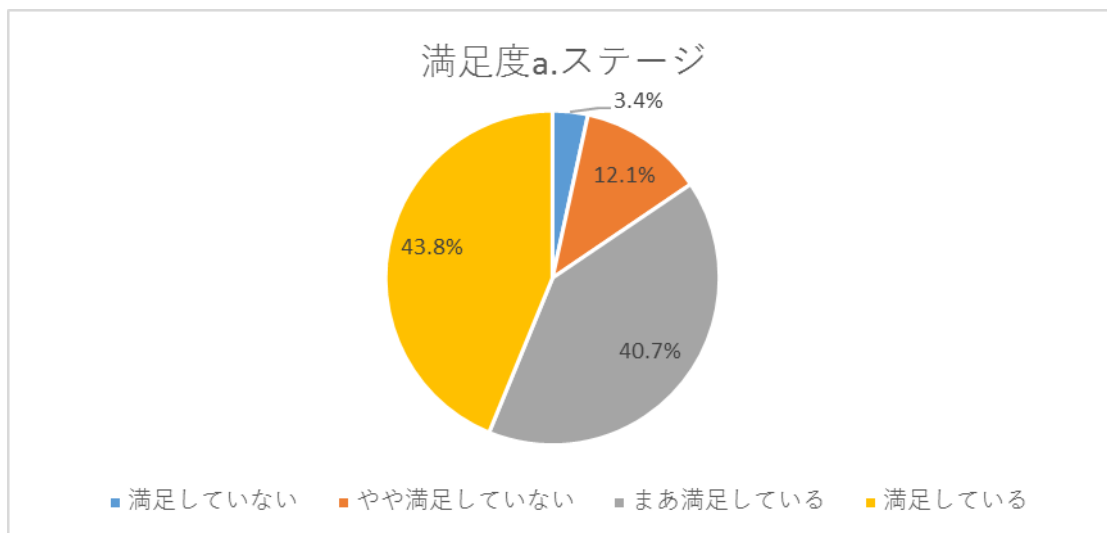
来場目的として、最も多かった回答は「ブースで買い物や見学のため」の52.1%であった。以降、多かった順に「LGBTに関する様々な情報を得る」が45.9%、「LGBTの仲間とお祭りを楽しむ」が32.8%という回答であった。また、「たまたま通りかかった」が3.9%と偶然来たという人もいた（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q3Q1 Q3の中で一番主要な目的は何ですか。あてはまる番号を1つだけ () 内にご記入ください。

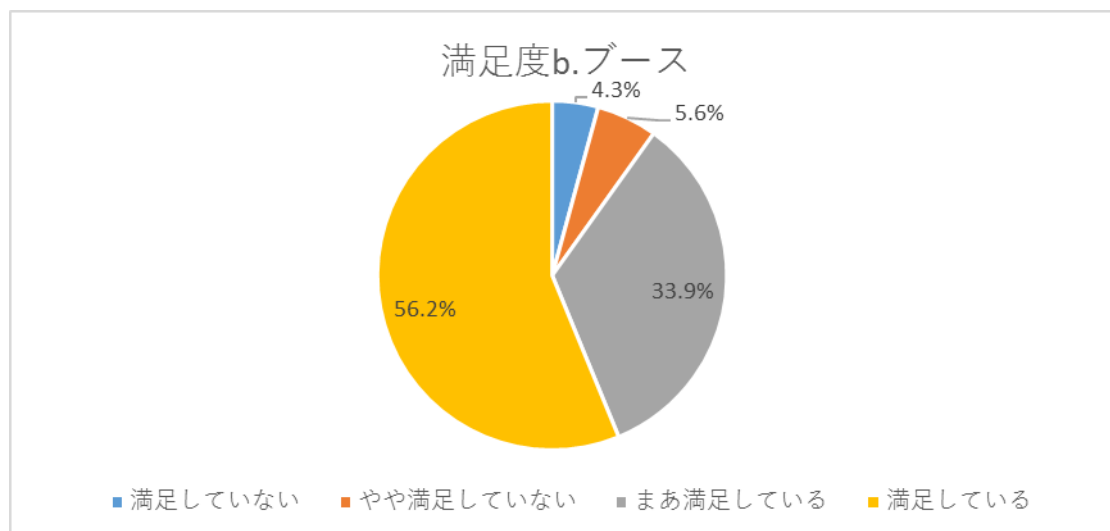


一番主要な来場目的で最も多かったのは「LGBTに関する様々な情報を得る」で19.2%であった。それ以降、多かった順に、「パレードに参加するため」が15.6%、「ブースでの買い物や見学のため」が15.3%、「LGBTの仲間とお祭りを楽しむ」が14.4%と続いた。

Q4 会場のイベントにはどの程度満足しましたか。aからdに関して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

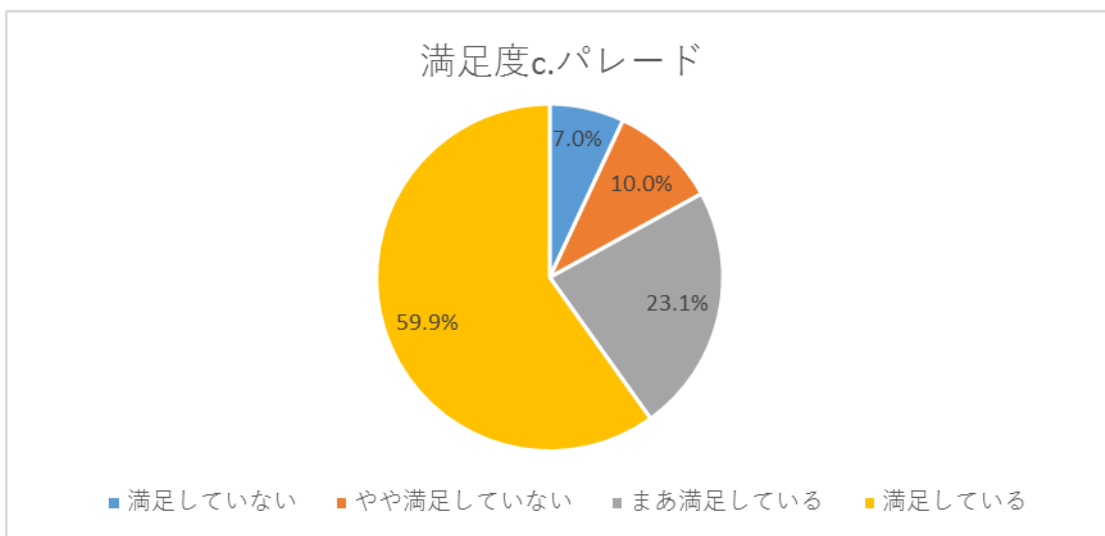


ステージについては、「体験・参加していない」の47.5%を除いて集計したところ、「満足している」が43.8%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が40.7%であった。これらを合わせると約84%の人がステージに対して満足をしているという結果であった。

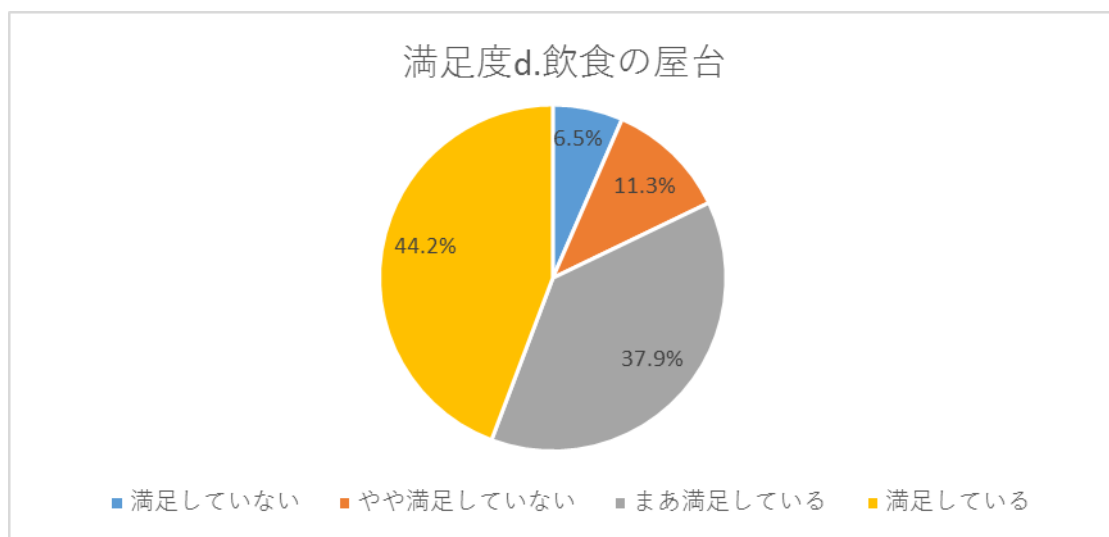


ブースについては、「体験・参加していない」の5.2%を除いて集計したところ、「満足している」が56.2%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が33.9%であった。

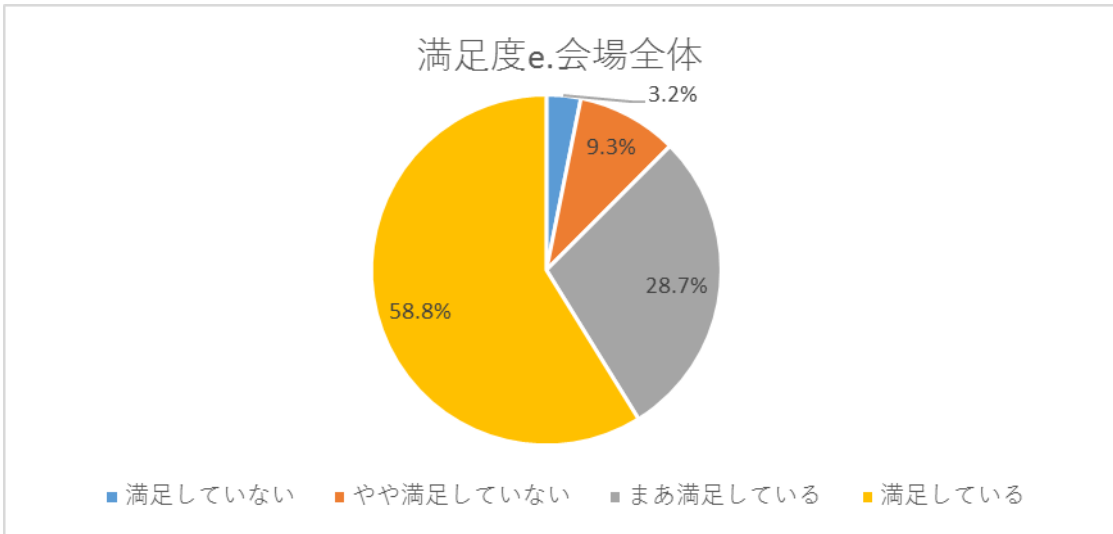
これらを合わせると約90%の人がブースに対して満足をしているという結果であった。



パレードについては、「体験・参加していない」の40.1%を除いて集計したところ、「満足している」が59.9%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が23.1%であった。これらを合わせると約83%の人がパレードに対して満足をしているという結果であった。

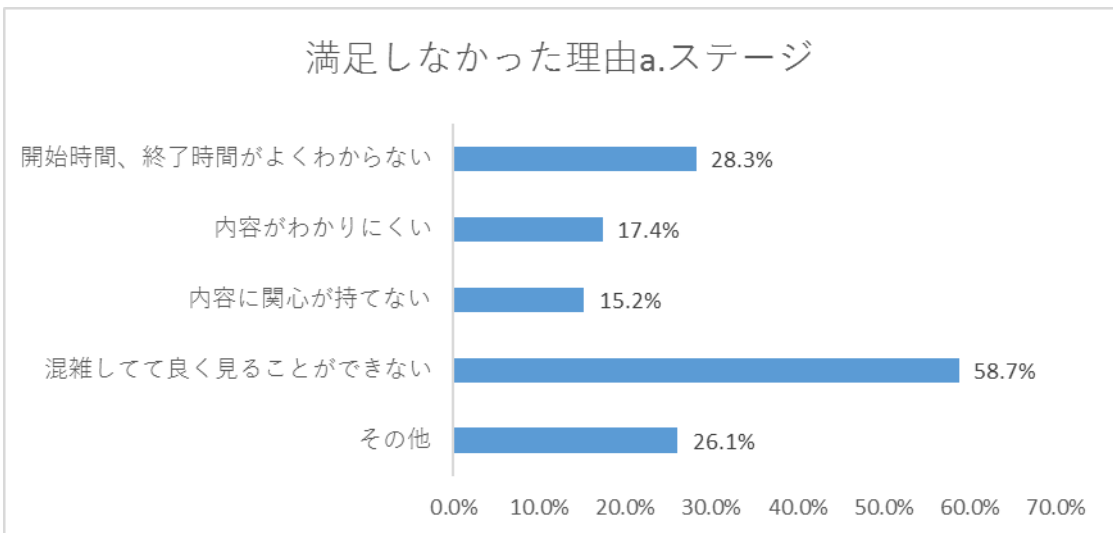


飲食の屋台については、「体験・参加していない」の18.6%を除いて集計したところ、「満足している」が44.2%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が37.9%であった。これらを合わせると約82%の人が飲食の屋台に対して満足をしているという結果であった。



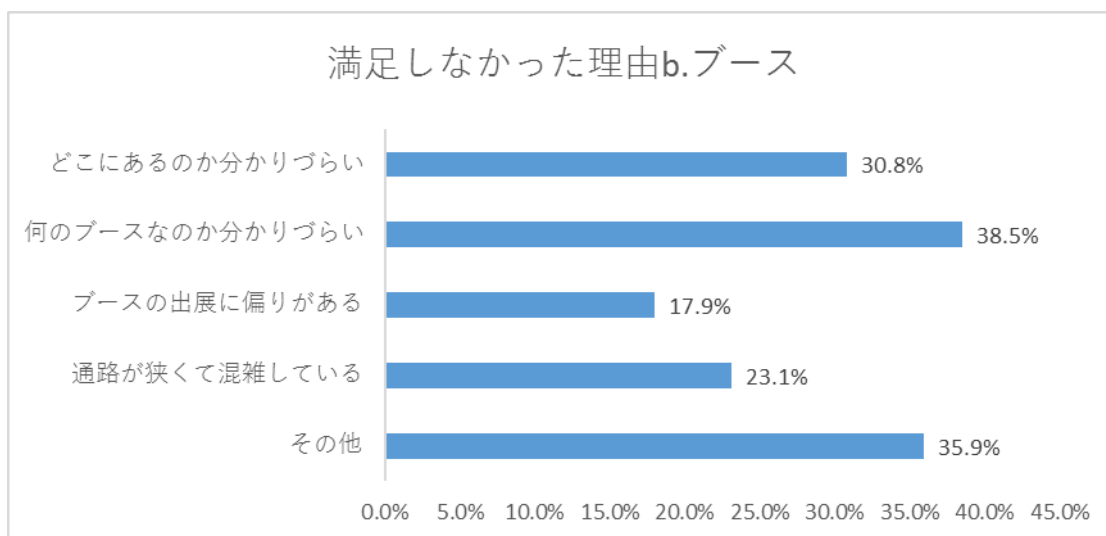
会場全体については、「体験・参加していない」の3.1%を除いて集計したところ、「満足している」が58.8%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が28.7%であった。これらを合わせると約87%の人が会場全体に対して満足をしているという結果であった。

Q4Q1 Q4で「1. 満足していない」。「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。

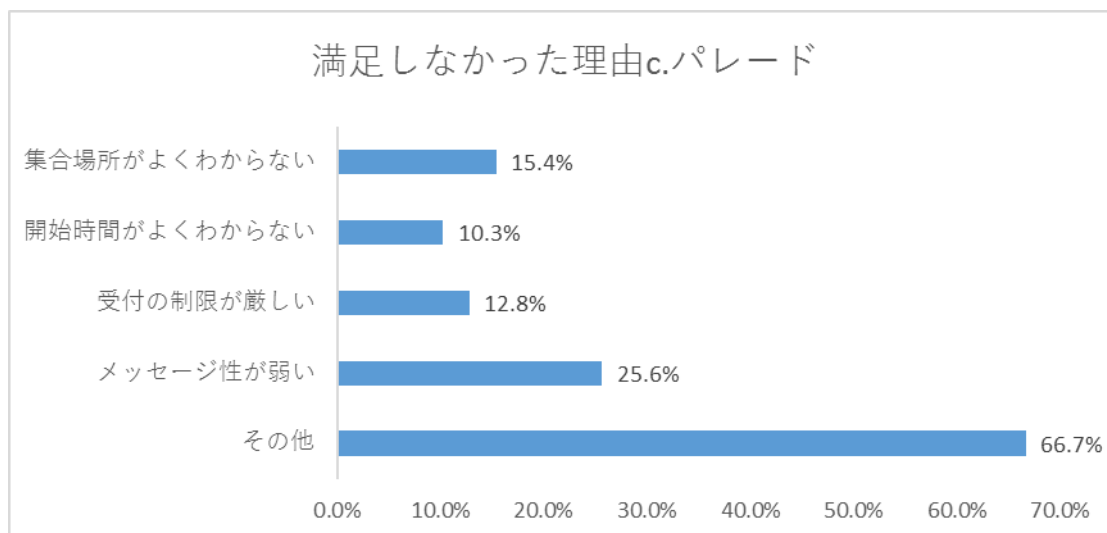


(複数回答であるため、合計して100%にはならない)
 ステージについて満足しなかった理由として「混雑してて良く見ることができない」が58.7%と最も割合が高かった。次いで、「開始時刻、終了時間がよくわからない」が

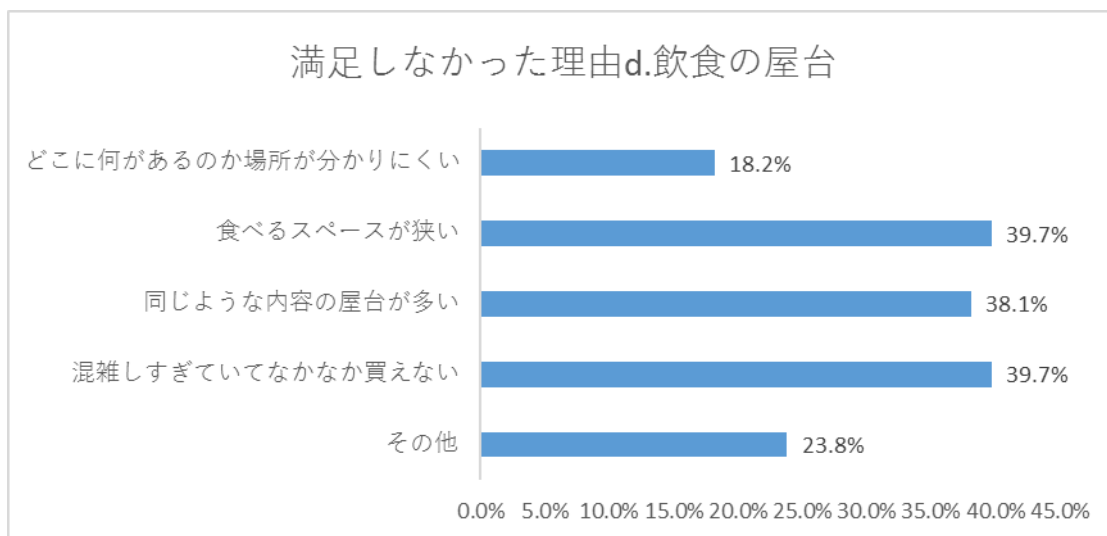
28.3%、「内容がわかりにくい」が 17.4%という結果であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）
ブースについて満足しなかった理由として「何のブースなのか分かりづらい」が 38.5%と最も割合が高かった。次いで、「どこにあるのか分かりづらい」が 30.8%、「通路が狭くて混雑している」が 23.1%という結果であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

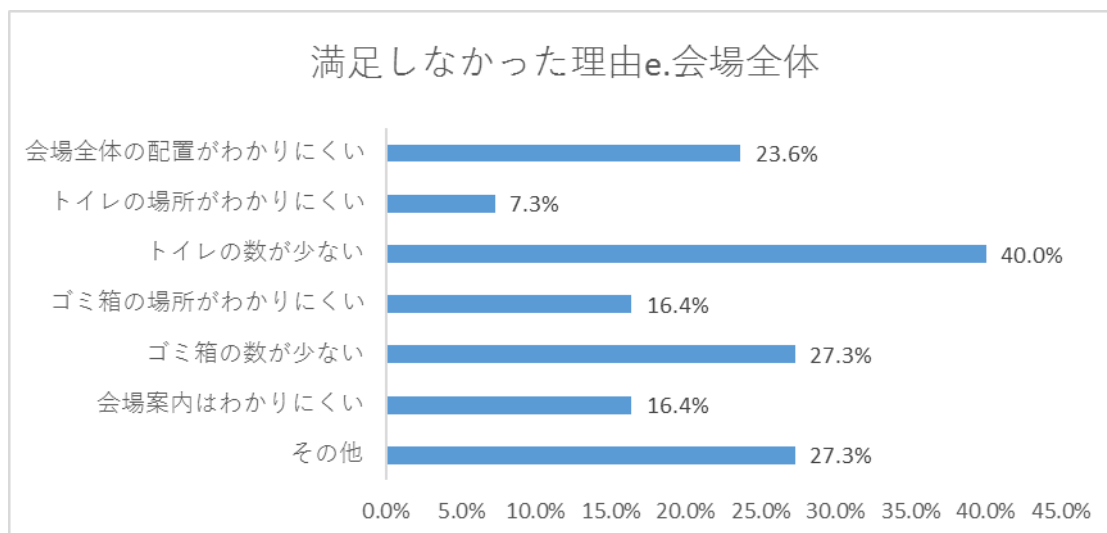


（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）
パレードについて満足しなかった理由として「メッセージ性が弱い」が 25.6%と最も割合が高かった。次いで、「集合場所がよくわからない」が 15.4%、「受付の制限が厳しい」が 12.8%という結果であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



(複数回答であるため、合計して 100%にはならない)

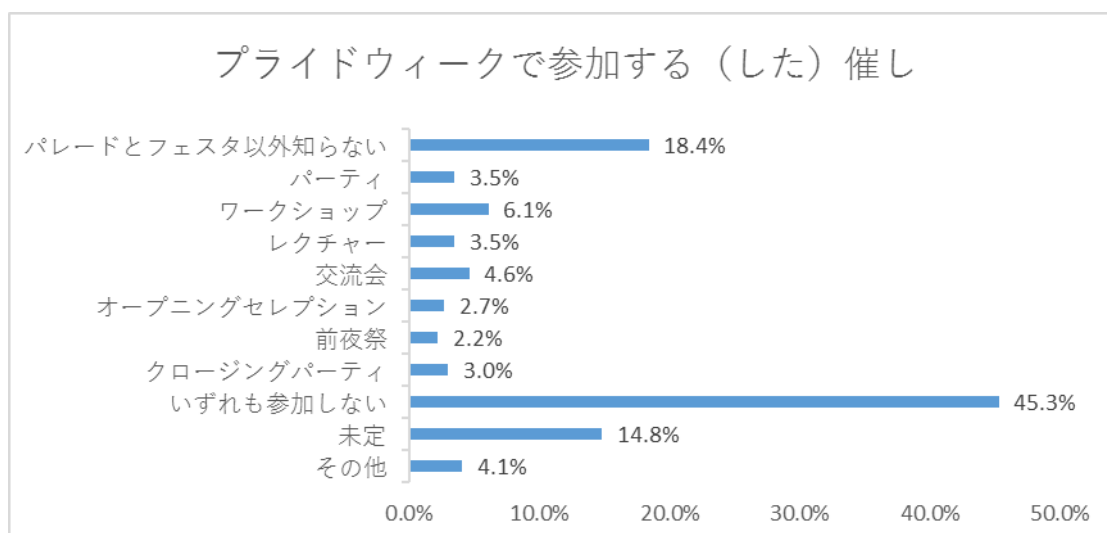
飲食の屋台について満足しなかった理由として、「食べるスペースが狭い」、「混雑しすぎていてなかなか買えない」が 39.7%で最も割合が高かった。次いで、「同じような内容の屋台が多い」が 38.1%、その他が 23.8%という結果であった(「その他」の具体的内容は別途記載)



(複数回答であるため、合計して 100%にはならない)

会場全体について満足しなかった理由として「トイレの数が少ない」が 40.0%と最も割合が高かった。次いで、「ゴミ箱の数が少ない」が 27.3%、「会場全体の配置がわかりにくい」が 23.6%という結果であった(「その他」の具体的内容は別途記載)。

Q5 プライドウエークの期間は、この会場でのプライドフェスティバルとパレードのほか、オープングレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

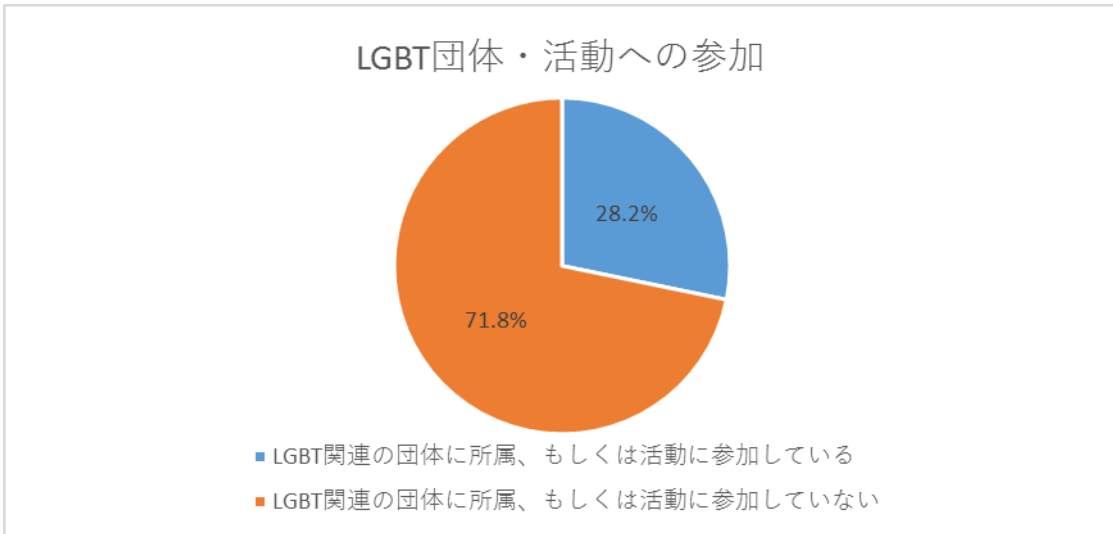


(複数回答であるため、合計して 100%にはならない)

プライドウエークの催しに「いずれも参加しない」と回答している人が 45.3%と最も高かった。次いで、「パーティとフェスタ以外知らない (18.4%)」、「未定 (14.8%)」、「ワークショップ (6.1%)」、「交流会 (4.6%)」、「パーティ (3.5%)」、「レクチャー (3.5%)」、「クロージングパーティ (3.0%)」、「オープングレセプション(2.7%)」、「前夜祭 (2.2%)」という結果であった。参加者の多くは、プライドウエークにおける催しに参加しておらず、またパレードとフェスタ以外の催しを知らないという回答が多かった。そのため、参加者はパレードやフェスタ、園内の屋台など、会場内で行われている催しを楽しむために来場してきたと推測できる。

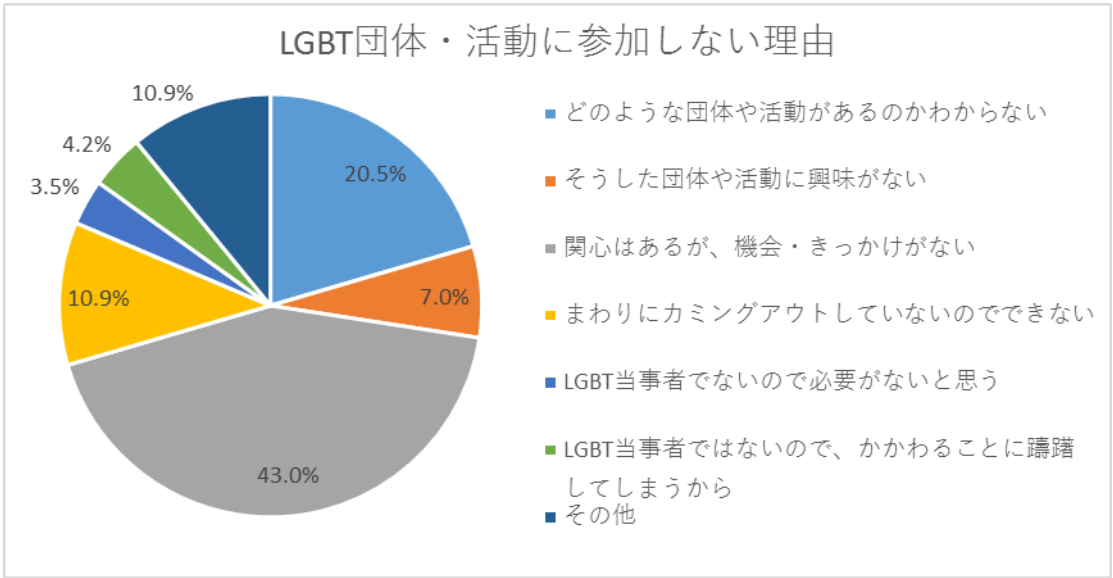
Q6 東京レインボープライドでは、プライドウエークの企画・運営の他、渋谷区の LGBT を対象にしたコミュニティスペース (#渋谷にかける虹) の企画・運営なども行っています。「#渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。(この設問は自由記述のため、具体的内容は別途記述)

Q7 あなたは LGBT 関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



LGBT 関連団体に所属、もしくは活動に「参加していない」という回答が 71.8%と、全体の約 7 割を占めており、「参加している」という回答が 28.2%であった。

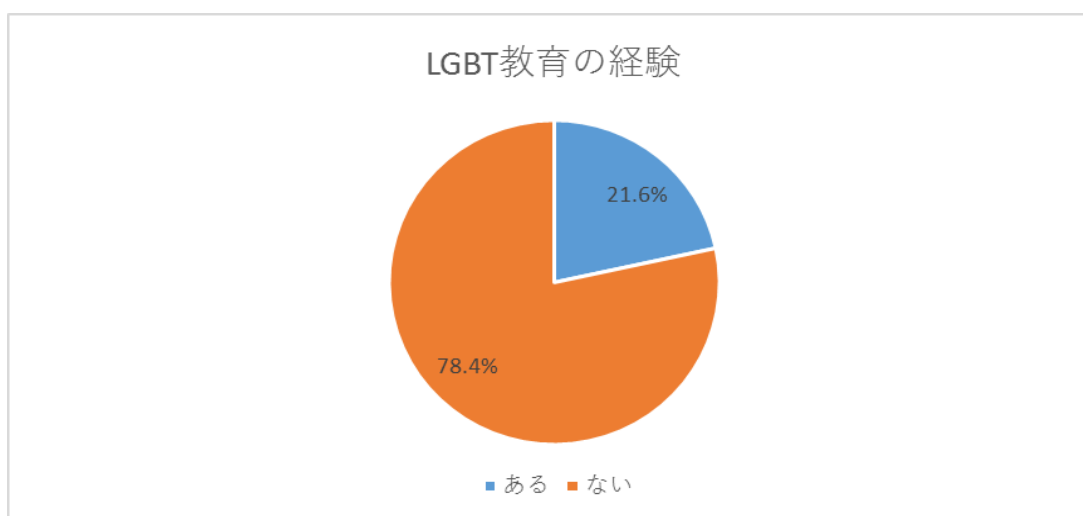
Q7SQ1 Q7で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q7において、「LGBT 関連の活動はしていない」という回答が 7 割以上を占めた。そこで、参加をしない理由を Q7SQ1 で質問をした。参加をしない、最も大きな理由は「関心はあるが、機会・きっかけがない」の 43%であった。次いで割合の高い順に、「どのような団体や活動があるのかわからない」(20.5%)、「まわりにカミングアウトしていないので

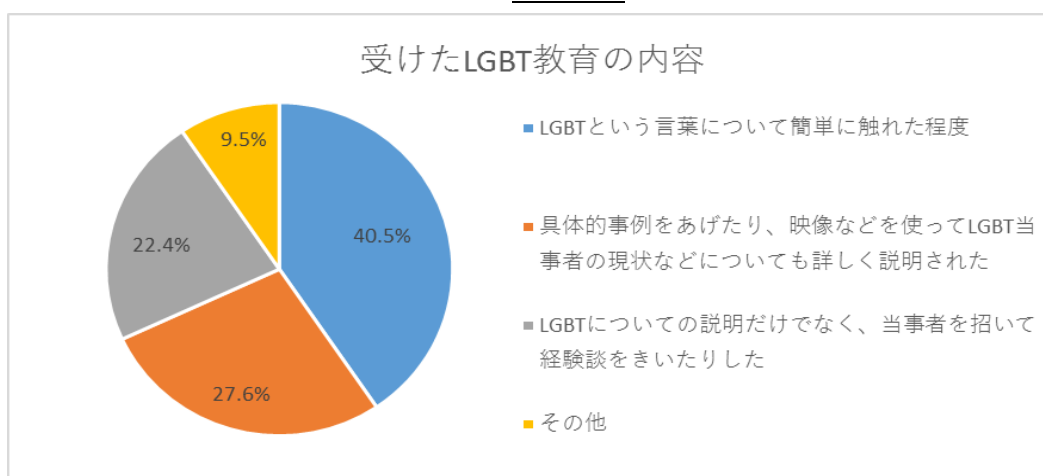
できない」(10.9%)、「そうした団体や活動に興味が無い」(7.0%)、「LGBT 当事者ではないので、かかわることに躊躇してしまうから」(4.2%)、「LGBT 当事者でないので必要がないと思う」(3.5%) という回答であった。LGBT について興味がないというわけではなく、LGBT 団体による活動の認知、知るきっかけというものが少ないために、活動にふみきれない人が多数を占めているということが推測できる。

Q8 あなたは、これまでに学校で LGBT に関する授業を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。



LGBT 教育の経験が「ある」と回答した人の割合は 21.6%であった。「ない」という回答は 78.4%であった。8 割程度の人々が LGBT 教育の経験がないということがうかがえる。

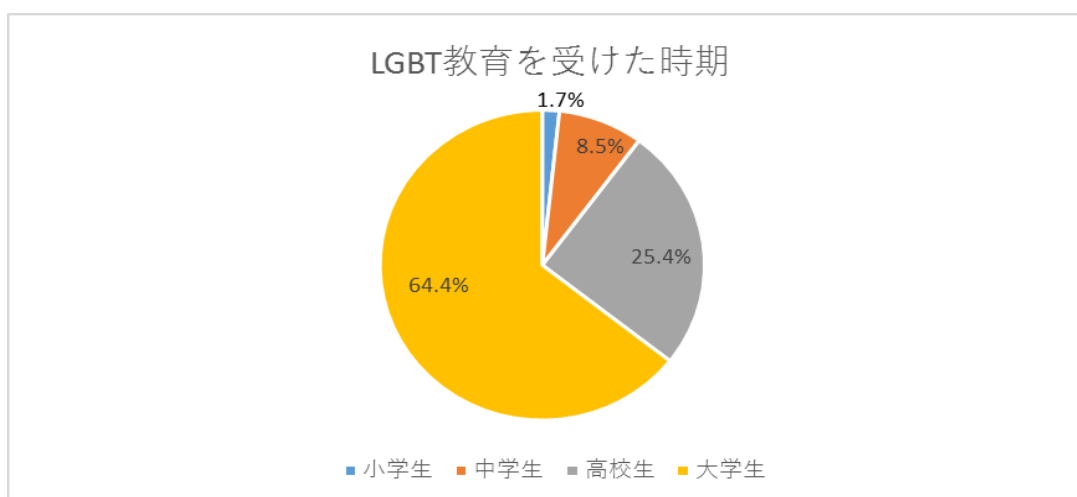
Q8Q1 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。



Q8で「LGBT 教育の経験がある」という人に具体的な内容を尋ねたところ、「LGBT とい

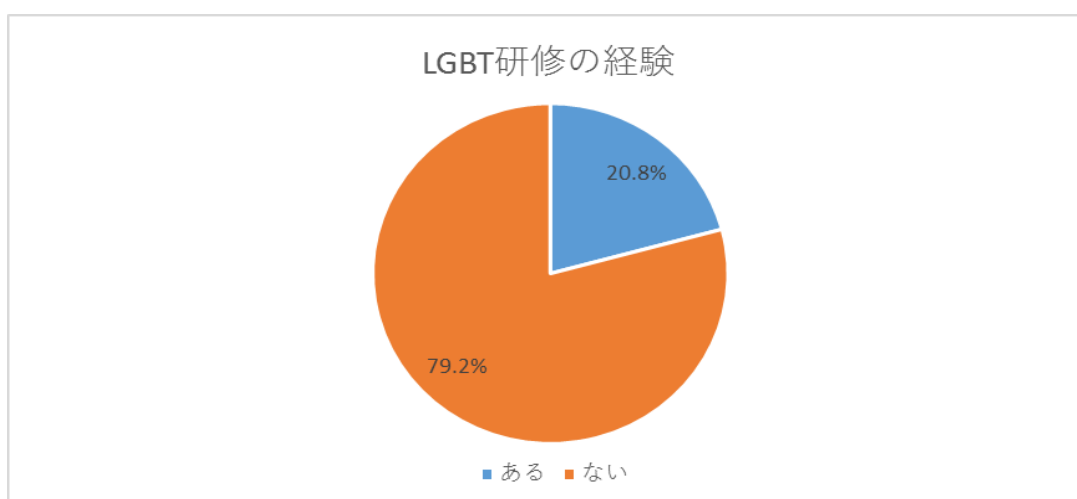
う言葉について簡単に触れた程度」が 40.5%と最も割合が高かった。次いで、「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された」が 27.6%、「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談をきいたりした」が 22.4%であった（「その他」の具体的な内容は別途記載）。

Q8Q2 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。その授業を受けたのはいつですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



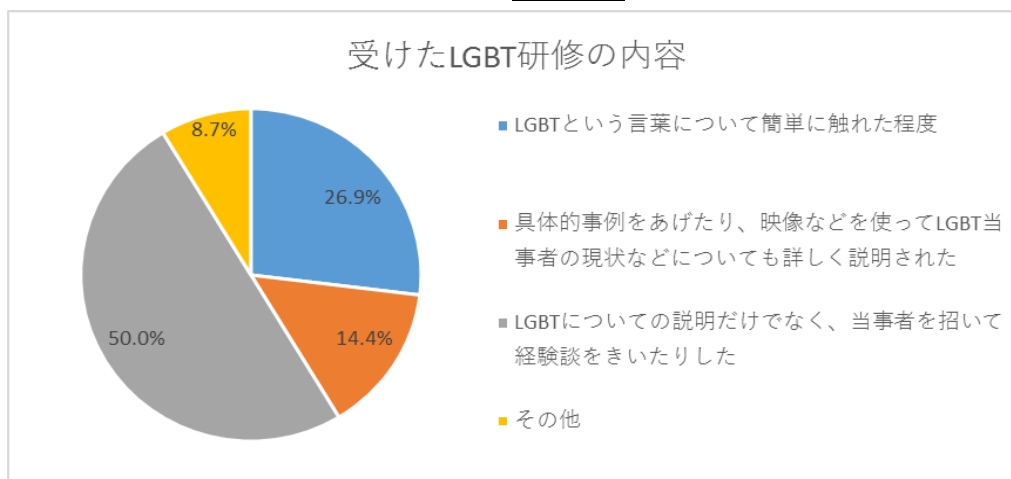
Q8で「LGBT教育の経験がある」と回答した人にその時期を聞いたところ、「大学生」の割合が64.4%と最も高い。次いで高かったのは、「高校生」の25.4%で、「中学生」は8.5%、「小学生」は1.7%とつづく。高校生と大学生を合わせると9割近くにもおよぶ。義務教育期間において、LGBT教育を受けている人が少ないということがうかがえる

Q9 あなたはこれまでに職場でLGBTに関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



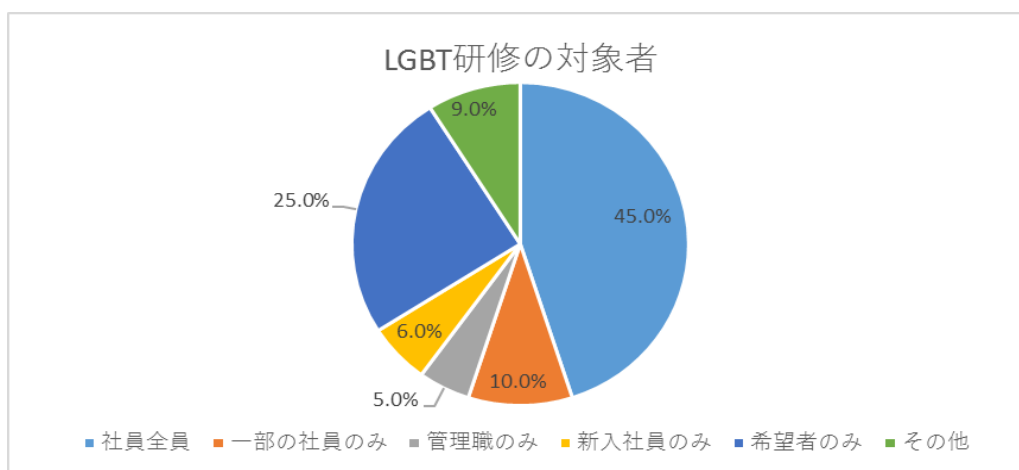
職場における LGBT の研修の経験について、「学生もしくは職場がない」の 15.1%を除いて集計したところ、経験が「ない」と回答した人の割合が 79.2%であった。また、経験が「ある」と回答した人の割合は 20.8%であったことから、職場における LGBT 研修の実施はまだ、実施する企業が少ないということがうかがえる

Q9Q1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



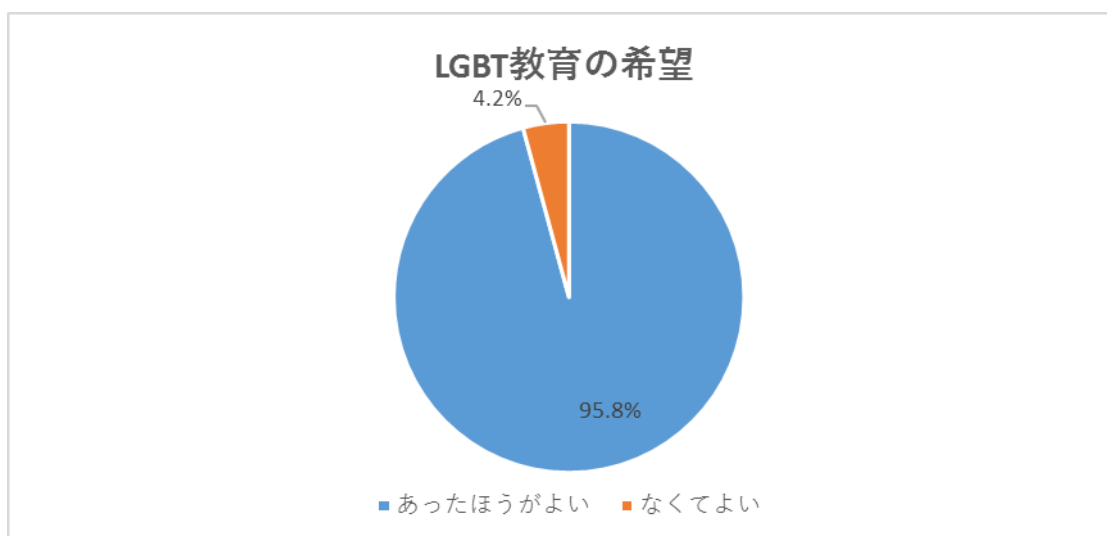
Q9において「職場における LGBT 研修の経験がある」と回答した人に具体的な研修内容を尋ねたところ、「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞いたりした」の割合が最も高く、50.0%であった。次いで、「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」が 26.9%、「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された」が 14.4%という回答であった（「その他」の具体的な内容は別途記載）

Q9Q2 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



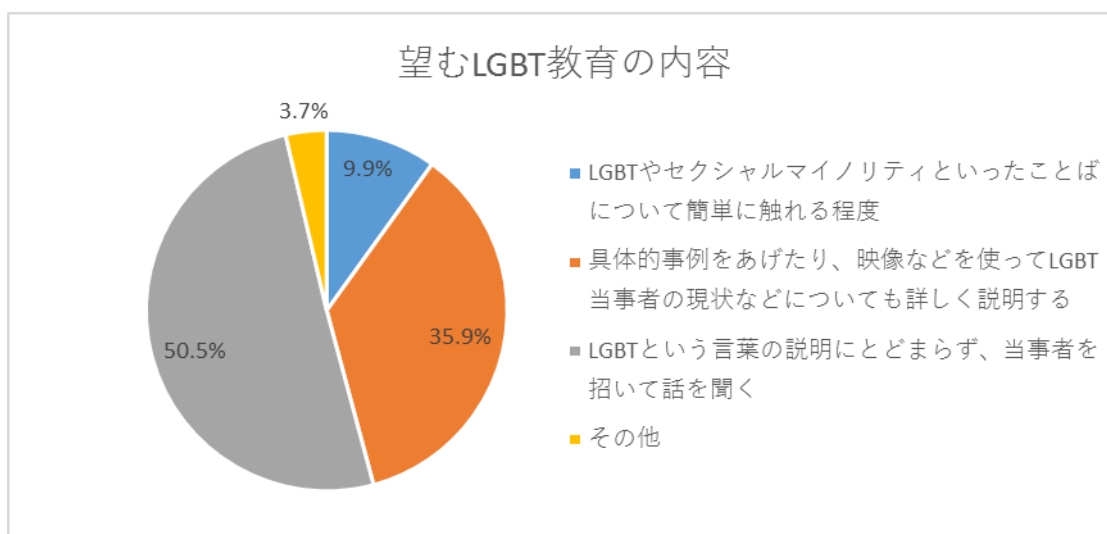
Q9において「職場におけるLGBT研修の経験がある」と回答した人に、その研修の対象者について尋ねたところ、「社員全体」が45.0%と最も高い割合であった。次いで、「希望者のみ」が25.0%、「一部社員のみ」が10%、「新入社員のみ」が6.0%、「管理職のみ」が5.0%という回答であった。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q10 あなたは、学校でLGBTに関する授業があったほうが良いと考えますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



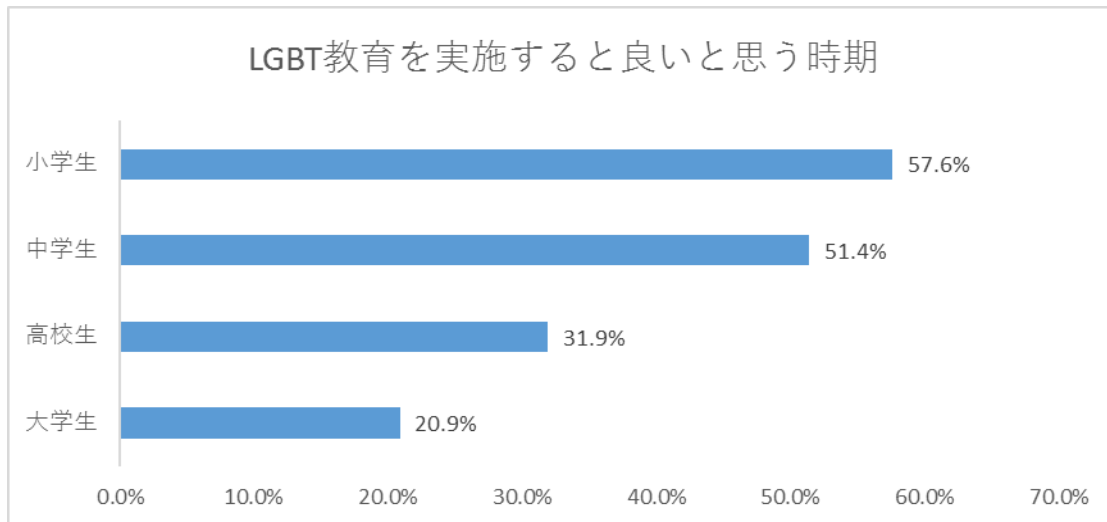
学校でLGBT教育が「あったほうがよい」と回答した人の割合は95.8%で、LGBT教育が「なくてもよい」と回答した人の割合は4.2%であった。

Q10Q1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q10 において「LGBT教育があったほうがよい」と回答した人に具体的にどのようなLGBT教育を希望するのかを尋ねたところ、「LGBTについての説明だけでなく、当事者を招いて話を聞く」が50.5%と最も高かった。次いで「具体的な事例をあげたり、映像などを使ってLGBT当事者の現状などについても詳しく説明する」が35.9%、「LGBTやセクシャルマイノリティといったことばについて簡単に触れる程度」が9.9%という回答であった。半数以上のひとが、LGBT当事者から話を聞く教育を望んでいるということが分かる。

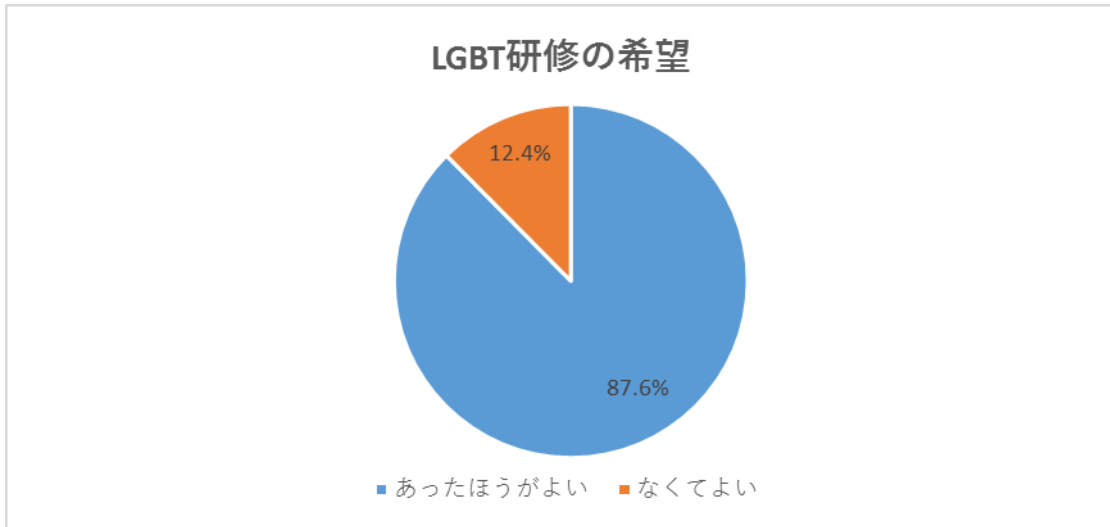
Q10Q2 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する次期はいつが良いと思いますか。



(複数回答であるため、合計は100%にならない)

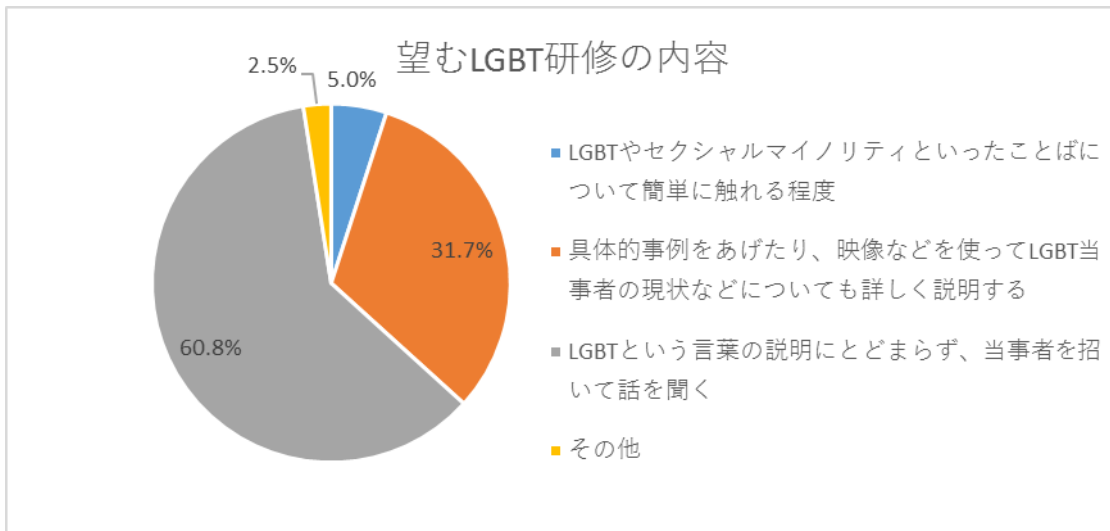
Q10 において「LGBT教育があったほうがよい」と回答した人に具体的に実施をすべき時期を尋ねたところ「小学生」が57.6%と割合が最も高かった。次いで、「中学生」が51.4%、「高校生」が31.9%、「大学生」が20.9%であった。このことより、大学生よりも小学生、中学生という早い段階においてLGBT教育を実施することを望んでいることがうかがえる。

Q11 あなたは職場でLGBTに関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



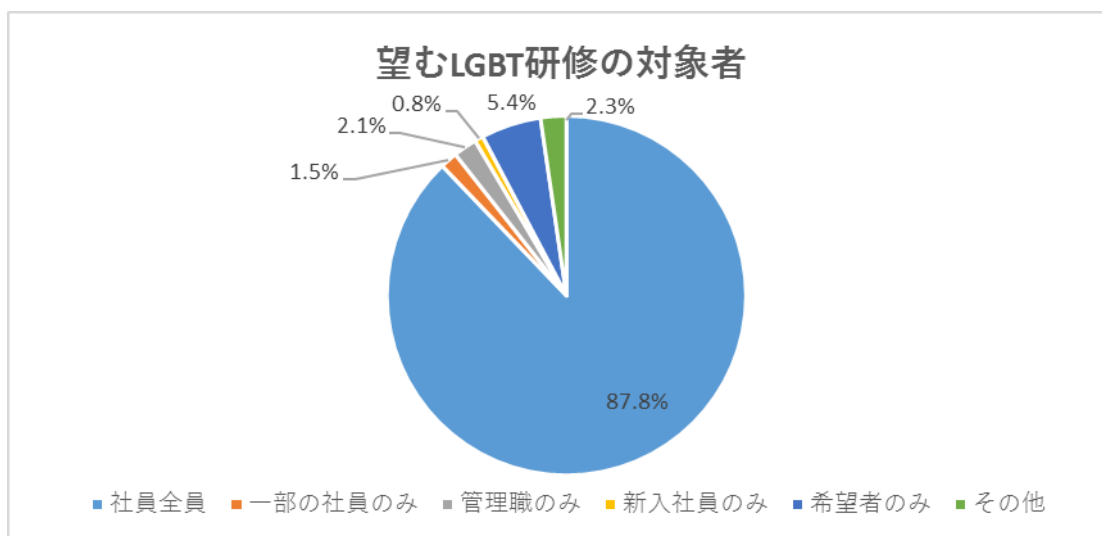
職場での LGBT 研修に関して、LGBT 研修が「あったほうがよい」と回答した人の割合は 87.6%であった。LGBT 研修が「なくてもよい」と回答した人は 12.4%であった。

Q11Q1 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



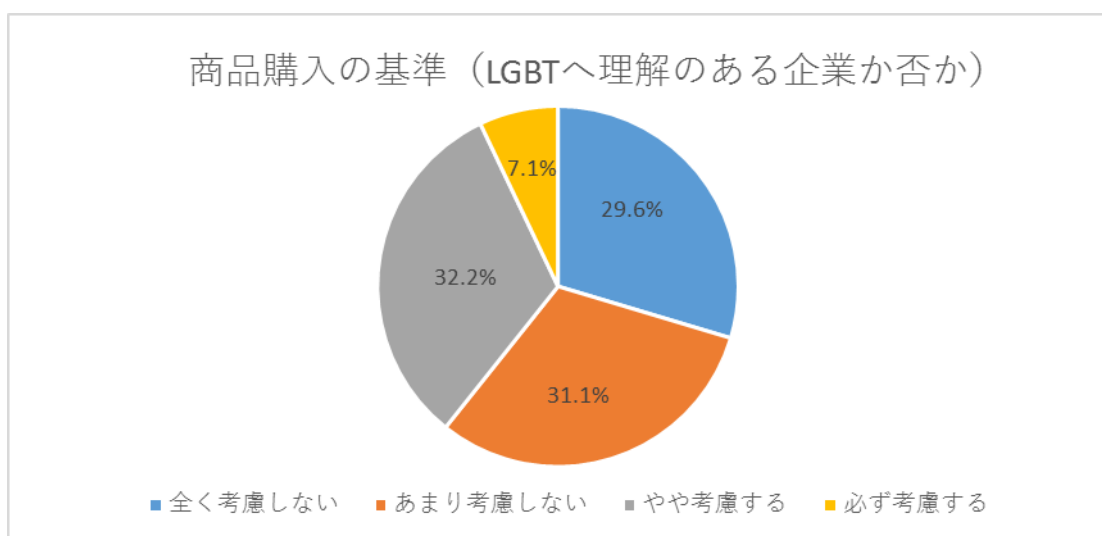
Q11 で職場において「LGBT 研修があったほうがよい」と回答した人に対して、その具体的に望む研修内容について尋ねたところ、「LGBT という言葉の説明にとどまらず、当事者を招いて話を聞く」と回答した人の割合が最も高く、60.8%であった。次いで、「具体的な事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する」が 31.7%、「LGBT やセクシャルマイノリティといったことばについて簡単に触れる程度」が 5.0%であった。言葉について触れるだけではなく、当事者から話を聞いたり、実際の現状を知ったりすることを望んでいるといえる。（「その他」の具体的内容は別途記載）

Q11Q2 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象はどのような形が良いと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q11で職場において「LGBT研修があったほうがよい」と回答した人に対してその対象者を尋ねたところ、「社員全員」が87.8%であった。約9割の人々が、LGBT研修は希望者や管理職のみだけではなく、企業の全員に受けてもらいたいと考えているということが分かる（「その他」の具田的内容は別途記載）。

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社がLGBTに理解のある会社かどうかを考慮して購入しますか（例えば、同じ種類の複数の商品から1つを選ぶ際に、多少価格が高くとも、LGBTへ理解を示している企業の製品を買うなど）。あてはまる番号に1つだけ○をしてください。

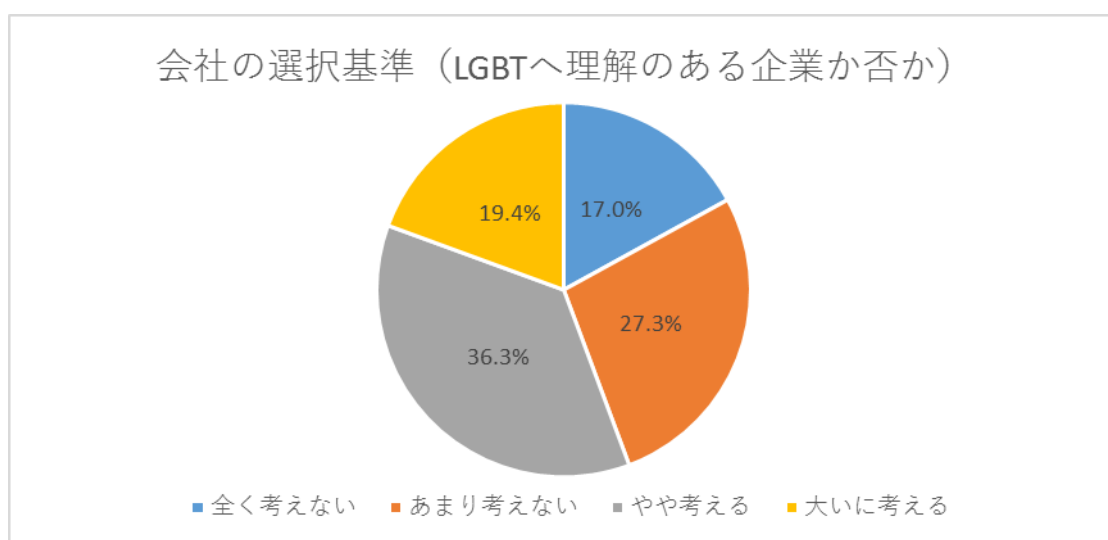


商品を購入する際に、その商品を製造している会社がLGBTに理解のある会社か、考慮

して購入するか、尋ねたところ、「全く考慮しない」が 29.6%、「あまり考慮しない」が 31.1%、「やや考慮する」が 32.2%、「必ず考慮する」が 7.1%という結果になった。約 6 割の人々が、商品を購入する際に、LGBT に理解のある会社が製造しているものなのかを考慮して購入していることがわかる。

また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者である人の場合、「全く考慮しない」が 28.2%、「あまり考慮しない」30.2%、「やや考慮する」32.1%、「必ず考慮する」9.5%であり、LGBT 当事者でない人の場合は、「全く考慮しない」が 33.7%、「あまり考慮しない」30.2%、「やや考慮する」32.2%、「必ず考慮する」4.0%であった (χ^2 検定 $p = n.s.$)。 χ^2 検定の結果から商品を購入する際に、LGBT 当事者であるか否かと商品購入の基準には有意な差が見られないことが確認された。

Q13 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？ 現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職業をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

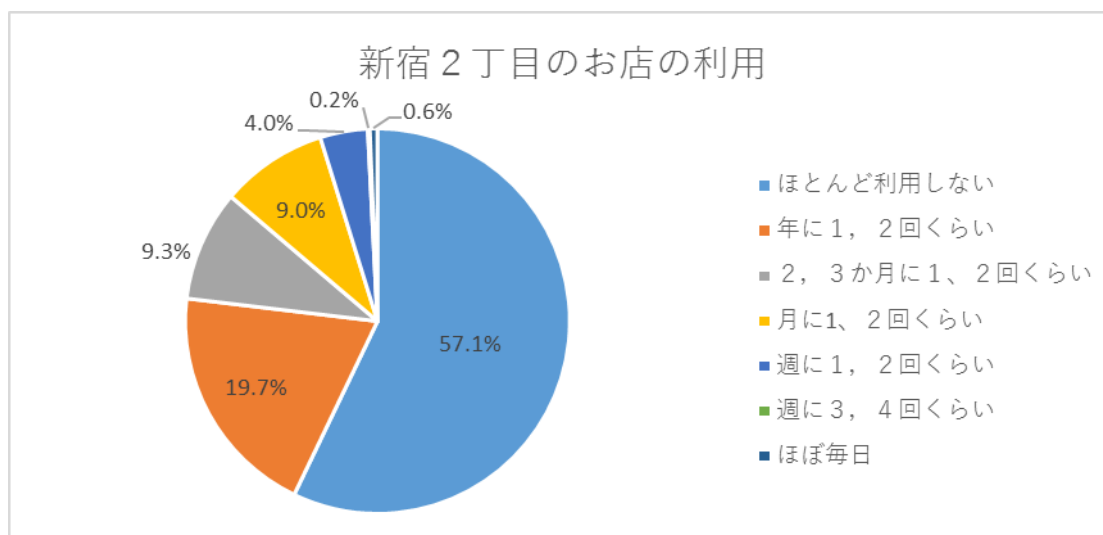


会社の選択について、理解のある企業かどうかを選択基準のひとつとして、「全く考えない」が 17.0%、「あまり考えない」が 27.3%、「やや考える」が 36.3%、「大いに考える」が 19.4%であった。約 6 割の人々が、会社の選択基準のひとつに LGBT に理解のある職場であるかどうかを考えていることがわかった。

また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者である人の場合、「全く考えない」が 15.0%、「あまり考えない」26.7%、「やや考える」33.1%、「大いに考える」25.3%であり、LGBT 当事者でない人の場合は、「全く考えない」が 20.4%、「あまり考えない」28.9%、「やや考える」41.8%、「大いに考える」9.0%であった (χ^2 検定 $p < .000$)。この結果から、LGBT 当事者の 60%近くが、職場選択の基準として、LGBT に

理解がある会社であるかどうかを考慮していることが分かる。一方、当事者でない場合も約半数が考えるとしており、これは、本調査の対象者が LGBT の方への高い理解を示しているといえるだろう。

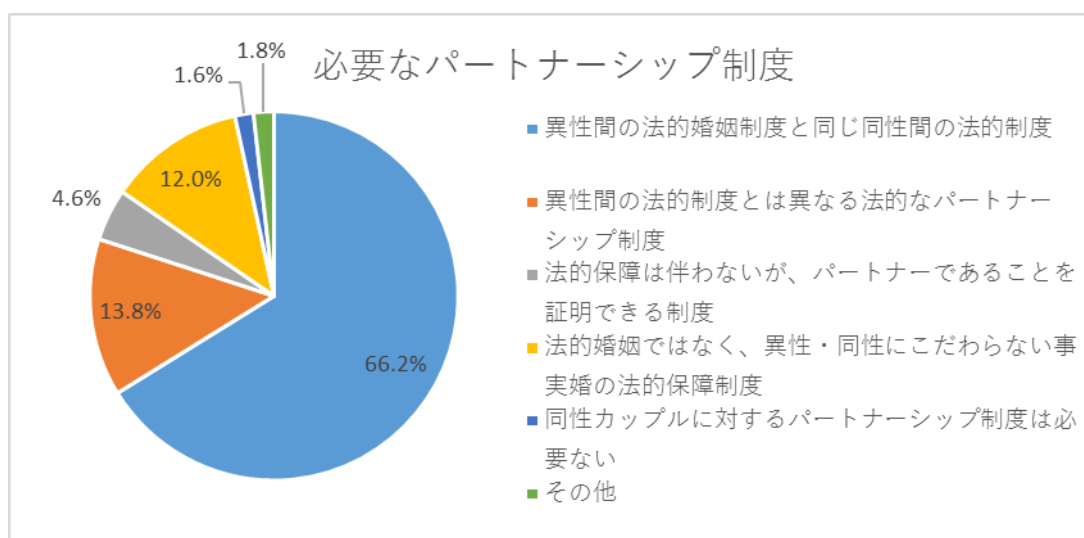
Q14 あなたは、新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用しますか？あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。



新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用するかについて、「ほとんど利用しない」が 57.1%、「年に 1, 2 回くらい」が 19.7%、「2, 3 か月に 1, 2 回くらい」が 9.3%、「月に 1, 2 回くらい」が 9.0%、「週に 1, 2 回くらい」が 4.0%、「週に 3, 4 回くらい」が 0.2%、「ほぼ毎日」が 0.6%であった。約 6 割の人々が「ほとんど利用しない」ことがわかった。また、約 4 割の利用している人々の中でも、「年に 1, 2 回くらい」利用する人がもっとも多く、「週に 3, 4 回くらい」、「ほぼ毎日」と頻繁に利用している人が少ないことがわかった。

しかし、新宿 2 丁目のお店に関して、LGBT 当事者である人、LGBT 当事者でない人を比較してみたところ、LGBT 当事者である人の場合、「ほとんど利用しない」が 42.9%、「年に 1, 2 回くらい」が 23.4%、「2, 3 か月に 1, 2 回くらい」が 13.4%、「月に 1, 2 回くらい」が 13.1%となった。また、LGBT 当事者でない人の場合は、「ほとんど利用しない」が 78.2%、「年に 1, 2 回くらい」が 15.8%、「2, 3 か月に 1, 2 回くらい」が 2.5%、「月に 1, 2 回くらい」が 2.0%となった (χ^2 検定 $p < .000$)。この結果から LGBT 当事者でない人の場合、新宿 2 丁目のお店はほとんど利用していないということが分かった。

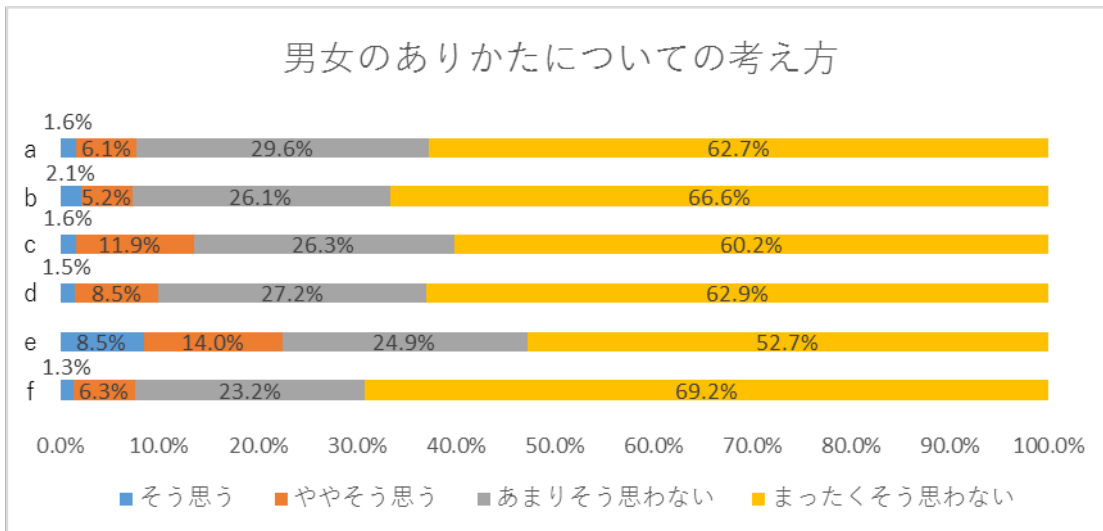
Q15 渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。しかし、渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的なパートナーシップ制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的なパートナーシップ制度が必要だと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



必要だと思われるパートナーシップ制度で、最も割合が高かったのは「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的制度」の66.2%であった。次いで、「異性間の法的制度とは異なる法的なパートナーシップ制度」が13.8%、「法的婚姻ではなく、異性・同性にこだわらない事実婚の法的保障制度」が12.0%という回答であった。現在、渋谷区や世田谷区で実施されている「法的保障は伴わないが、パートナーであることを証明できる制度」は4.6%と少数であった（「その他」の具体的記述は別途記載）。

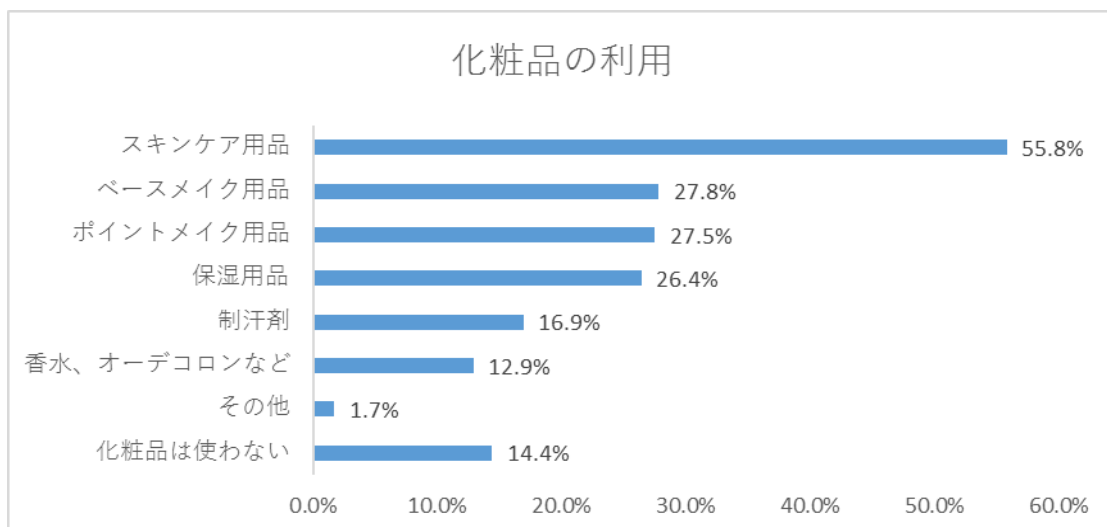
Q16 男女のありかたについての以下のような考え方について、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。a~fの考え方について、それぞれあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 男は男らしく、女は女らしくあるべきだ
- 共働きであっても稼ぎ手としての役割は男性にある
- 育児や介護などの人の世話をすることは、女性に向いている
- 男らしいあるいは女らしいファッションのほうが好ましい
- 既婚女性が働く際は、家事・育児に支障がでないようにすべきである
- リーダーシップや決断力が必要な仕事は、男性に向いている。



男女のありかたについての考え方を、6つの項目で尋ねた。結果としては、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が最も高かったのは「e.既婚女性が働く際は、家事・育児に支障がでないようにすべきである」で、22.5%であった。次いで「c.育児や介護などの人の世話をすることは、女性に向いている」が13.5%、「d.男らしいあるいは女らしいファッションのほうが好ましい」が10%という回答であり、a,b,fについては、合計が10%未満であった。「e.既婚女性が働く際は、家事・育児に支障がでないようにすべきである」のみ、「そう思う」と「ややそう思う」の割合が20%台と、高いことから、女性が担うべきとされる子育てや育児に関する性別役割意識というものは、未だに強く残る意識であると推測できる。

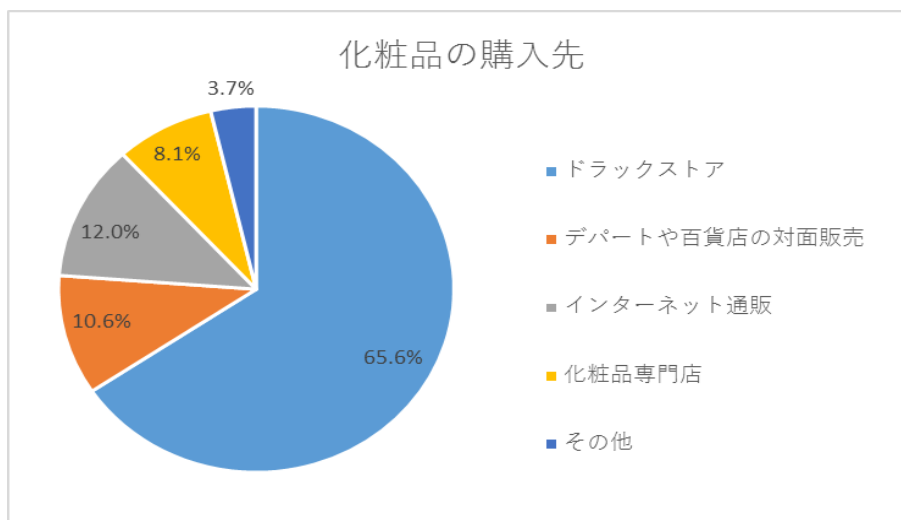
Q17 あなたは日頃、化粧品を使用しますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



(複数回答であるため、合計して100%にはならない)

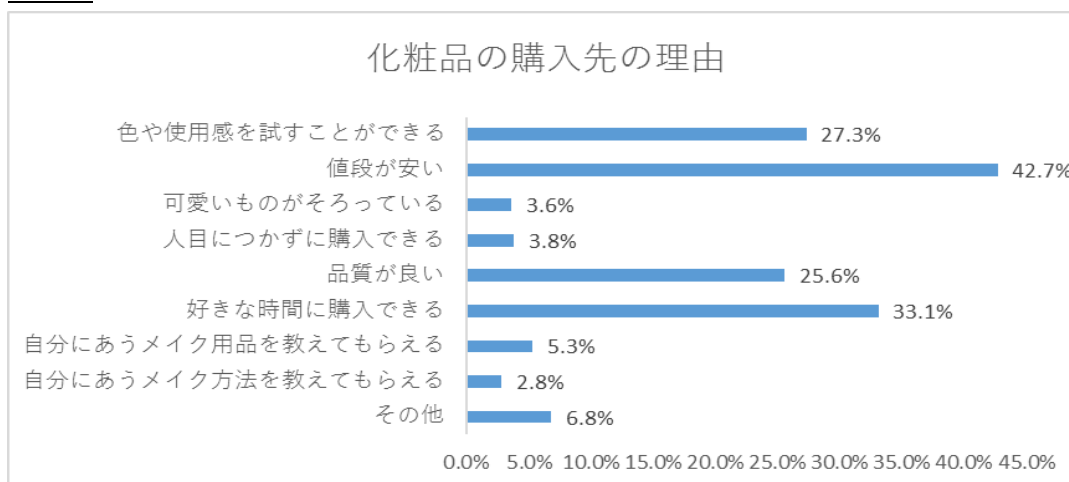
日頃から化粧品を使用しているかという問いに、「スキンケア用品」を使用していると回答した人が最も多く、55.8%であった。次いで「ベースメイク用品（27.8%）」、「ポイントメイク用品（27.5%）」、「保湿用品（26.4%）」、「制汗剤（16.9%）」、「香水、オーデコロンなど（12.9%）」という結果であった（「その他」の内容は別途記載）。

Q18 化粧品は主にどこで購入しますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q17で化粧品を使用していると回答した人に主にどこで購入するか聞いたところ、「ドラッグストア」と答えた人が半数以上を占める65.5%、次いで「インターネット通販」が12.0%、「デパートや百貨店の対面販売」が10.6%、「化粧品専門店」が8.1%という結果であった。

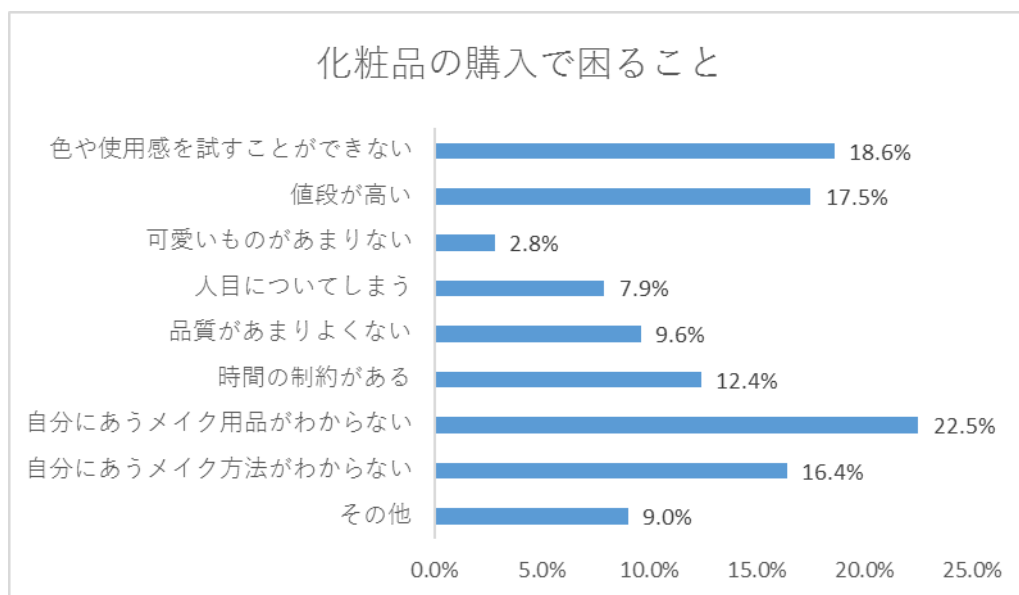
Q18SQ1 化粧品をQ18で回答されたところで購入する理由についてあてはまる番号に3つまで○をつけてください。



(複数回答であるため、合計して100%にはならない)

Q18 で回答されたところで購入する理由について聞いたところ、最も多かった回答が「値段が安い」ことが理由で 42.7%であった。次いで、「好きな時間に購入できる (33.1%)」、「色や使用感を試すことができる (27.3%)」、「品質がいい (25.6%)」、「自分にあうメイク用品を教えてもらえる (5.3%)」、「人目につかずに購入できる (3.8%)」、「可愛いものがそろっている (3.6%)」、「自分にあうメイク方法を教えてもらえる (2.8%)」という結果であった(「その他」の内容は別途記載)。以上のことから、化粧品を購入する場所(方法)の決め手は、値段の安さ、好きな時間に選べる、使用感を試すことができる、品質の良さであることがわかった。

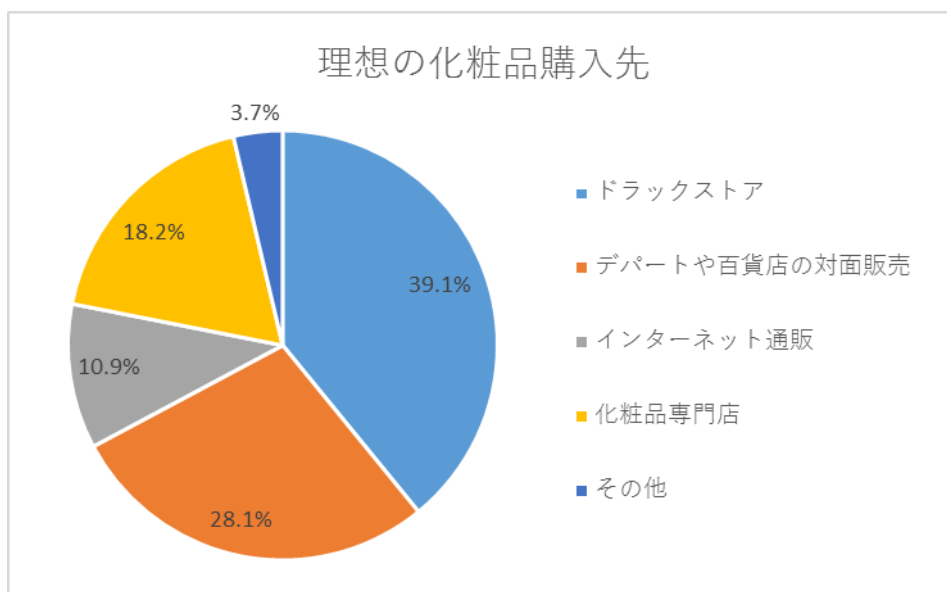
Q18SQ2 化粧品を Q18 で回答されたところで購入することで困ることについてあてはまる番号に3つまで○をつけてください。



(複数回答であるため、合計して 100%にはならない)

Q18 で回答されたところで購入する際に困ることを聞いてみると、「自分にあうメイク用品がわからない」という回答をした人が最も多く 22.5%であった。次に、「色や使用感を試すことができない」が 18.6%、「値段が高い」が 17.5%、「自分にあうメイク方法がわからない」が 16.4%、「時間の制約がある」が 12.4%、「品質があまりよくない」が 9.6%、「人目についてしまう」が 7.9%、「可愛いものがあまりない」が 2.8%で最も少数であった(「その他」の内容は別途記載)。Q18SQ1 ほど特定の回答に集中することはなかった。

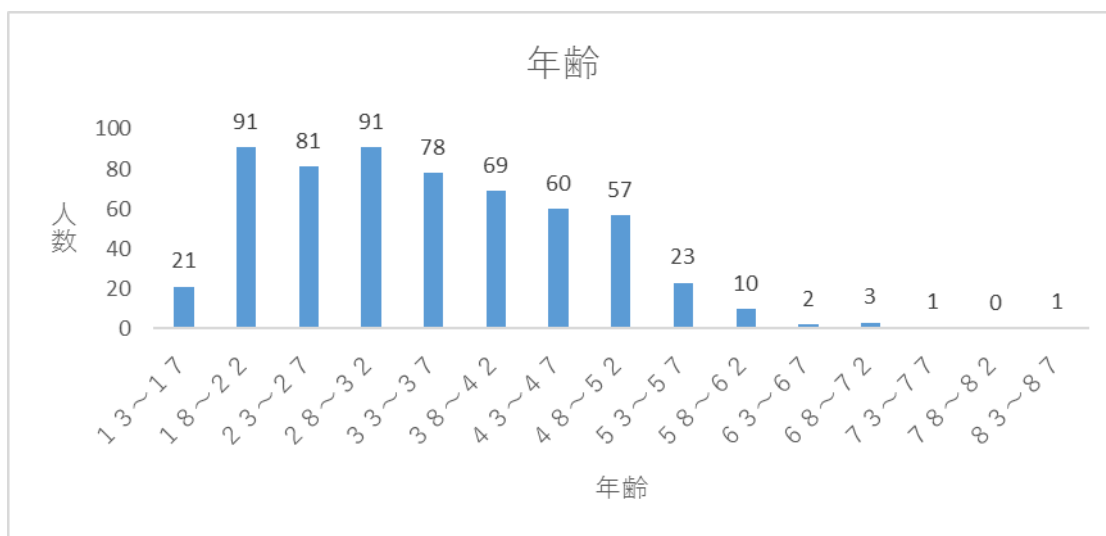
Q18SQ3 あなたが理想とする化粧品の購入先について、Q18の選択肢の中からあてはまる番号を1つだけ（ ）内にお書きください。



理想の購入先を聞いたところ、最も多かったのは「ドラッグストア」で39.1%であった。次いで、「デパートや百貨店の対面販売（28.1%）」、「化粧品専門店（18.2%）」、「インターネット通販（10.9%）」という結果であった。

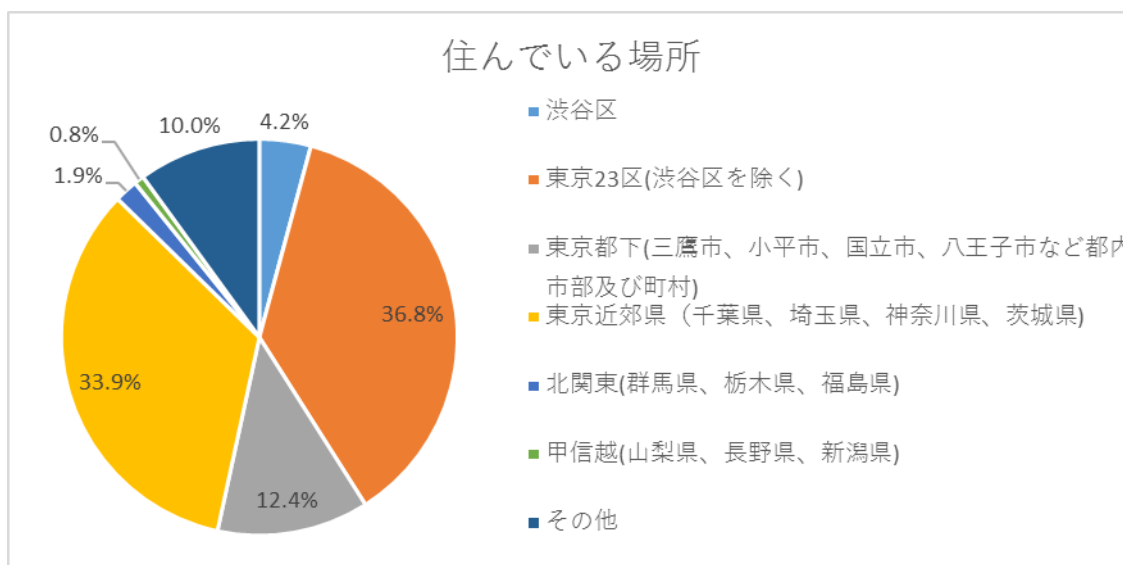
実際の購入先と理想の購入先で最も多かったところは「ドラッグストア」で同じであったが、それ以降の順番が全く異なっていた。Q18SQ2の結果にあるように、自分にあうメイク方法やメイク用品がわからないといったことが、インターネット通販が理想の購入先として最も選ばれなかった理由の一つではないかと推測できる。

Q19 あなたは現在おいくつですか。あなたの年齢を（ ）に数字で記入してください。



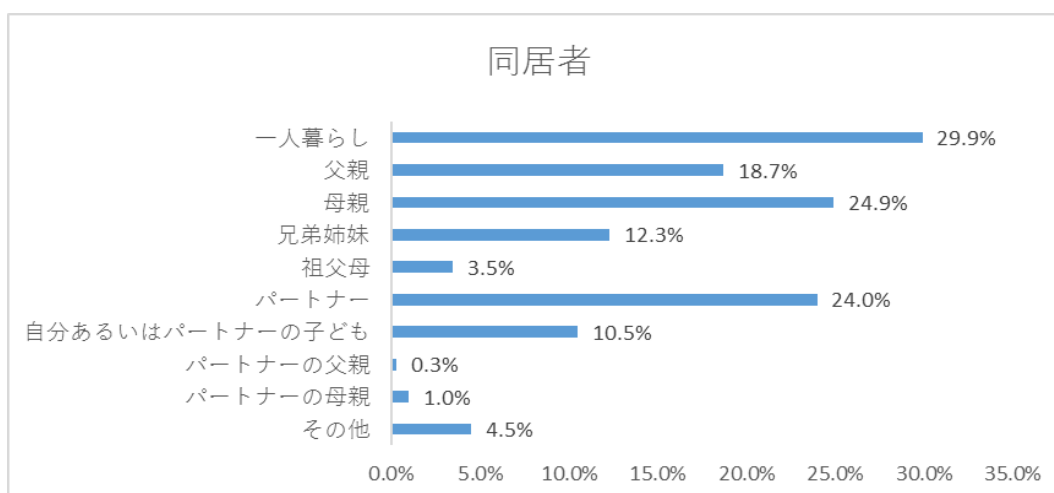
年齢を聞いたところ、最も多かったのは「18～22」と「28～32」で91人であった。次いで多かったのは「23～27」で81人であった。また、「58～62」は10人であり、それ以上の年代においても回答者の数は少ない。このことから、本アンケート回答者の年齢は比較的若いことが分かる。

Q20 あなたのお住まいはどちらですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



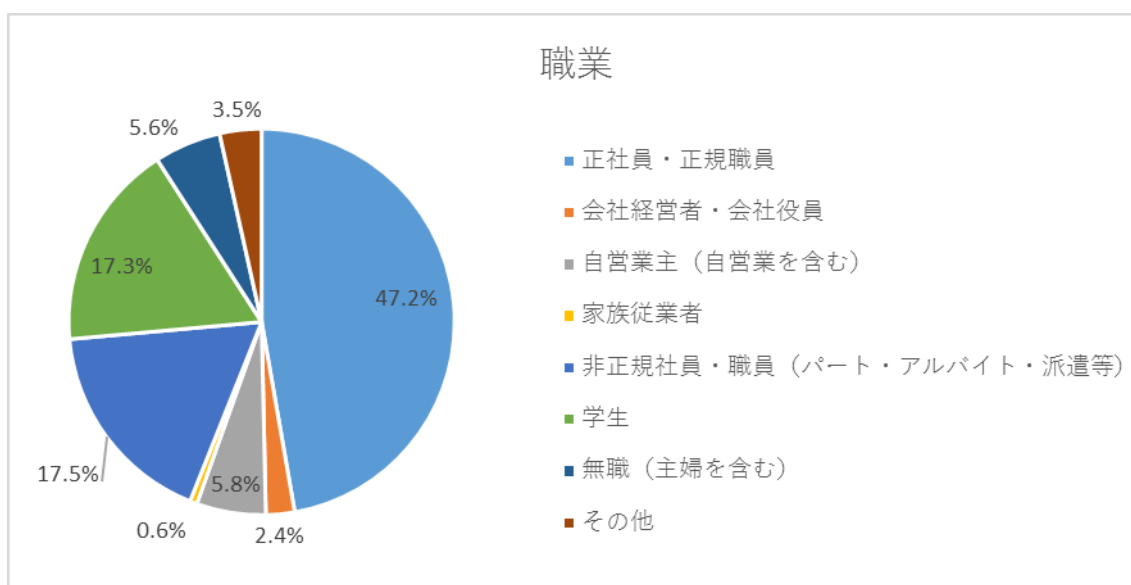
住んでいる地域について、「東京 23 区内(渋谷を除く)」と回答した人が 36.8%、「東京都近郊(千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県)」と回答した人が 33.9%と、半数以上を占めている。東京及び東京都近郊県に住んでいる人が多いという傾向が見られた。

Q21 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



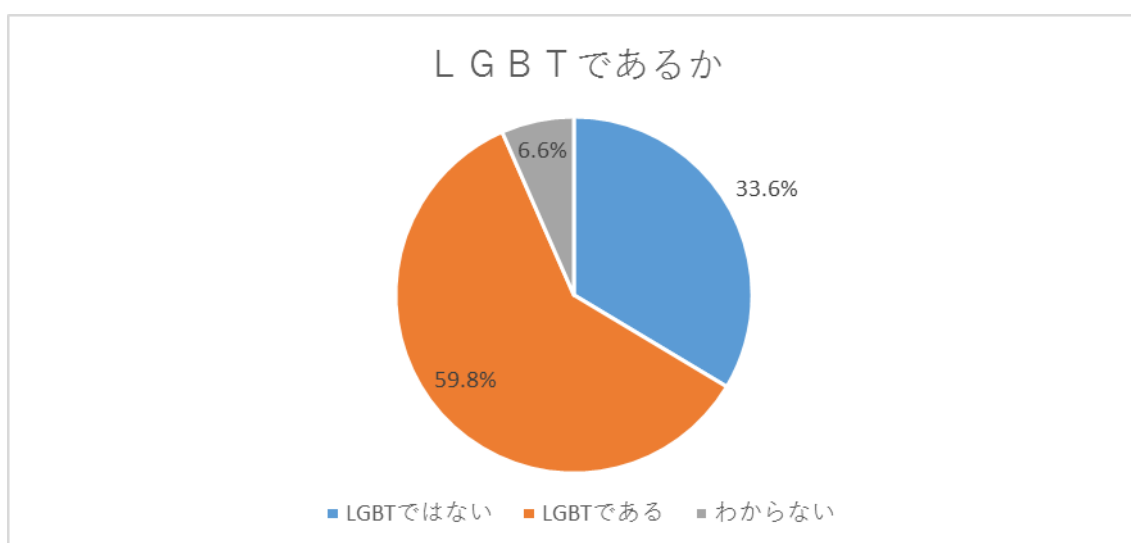
誰と暮らしているかについては、回答数が多い順に、「一人暮らし」が 29.9%、「母親」が 24.9%、「パートナー」が 24.0%、「父親」が 18.7%となった。

Q22 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



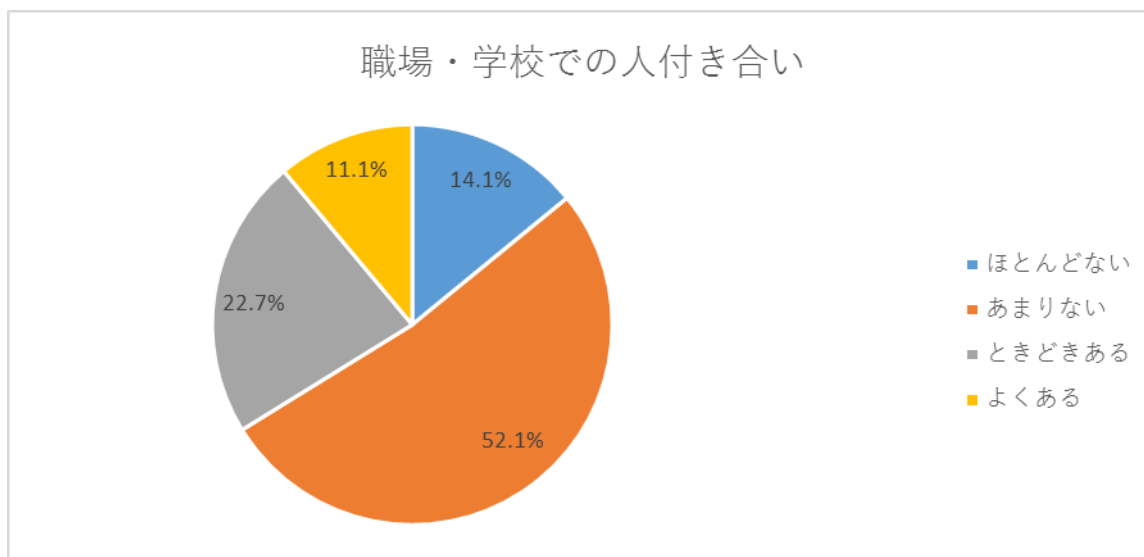
職業については、全体の約半数である 47.2%が「正社員・正規職員」である。次いで、「非正規社員・職員」が 17.5%で、「学生」が 17.3%ということが分かった。

Q23 あなたのセクシュアリティについて伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

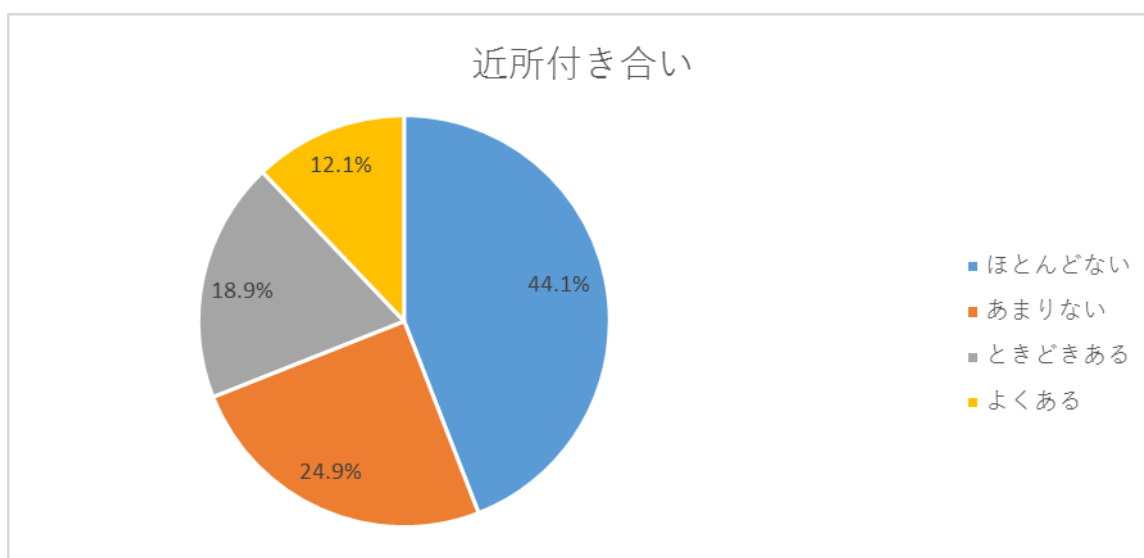


セクシャリティについての回答では、LGBTであると答えた人が59.8%となっており、来場者の半数以上がLGBTであることが分かった。また、LGBTではない人が33.6%、わからないと答えた人が6.6%となった。

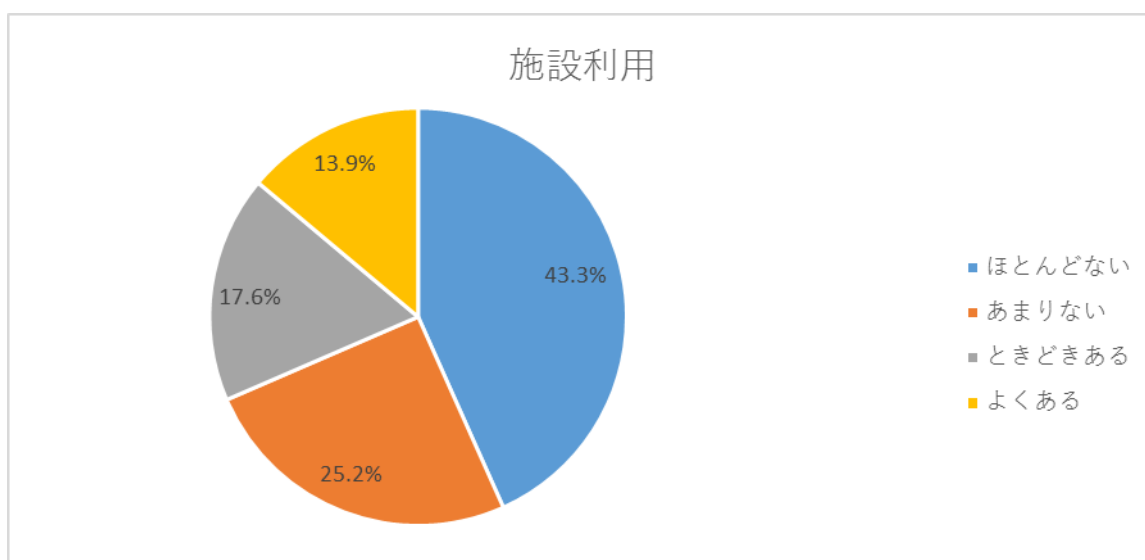
Q24 あなたは日常生活において、LGBTであるからということで、不便、不自由を感じることはありますか？aからdにあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



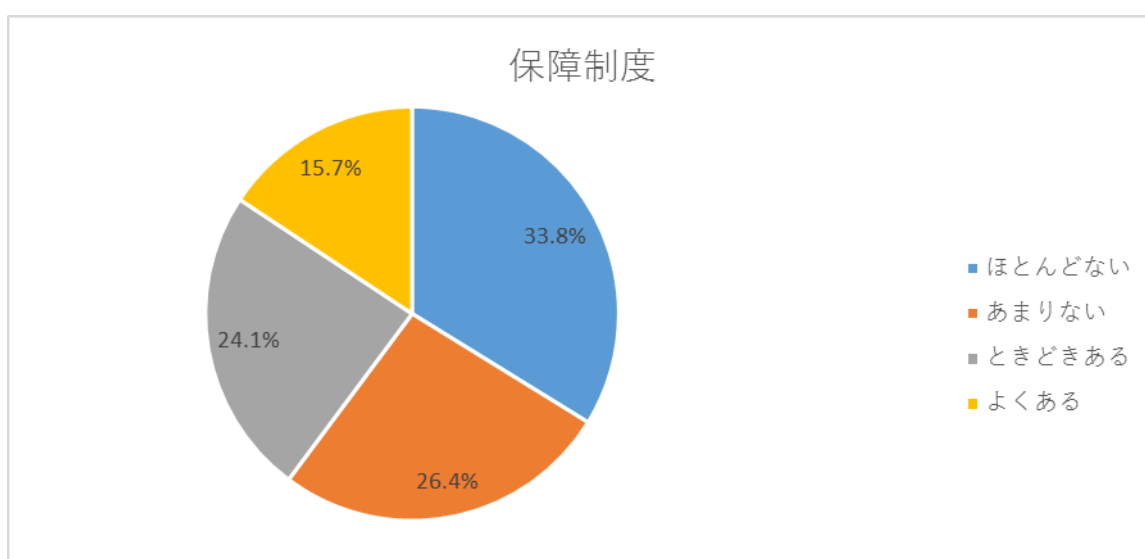
「LGBT（セクシャルマイノリティ）である」と回答した人に対して、職場・学校での人付き合いに不便・不自由を感じるかと質問したところ、「ほとんどない」が14.1%、「あまりない」が52.1%で、「ときどきある」が22.7%、「よくある」が11.1%という結果になった。職場・学校での人付き合いにおいて不便・不自由を感じている人は約3割ということが分かった。



「LGBT（セクシャルマイノリティ）である」と回答した人に対して、近所づきあいに不便・不自由を感じるかと質問したところ、「ほとんどない」が44.1%、「あまりない」が24.9%で、「ときどきある」が18.9%、「よくある」が12.1%という結果になった。職場・学校の人付き合いと同様に近所づきあいにおいて不便・不自由を感じている人も約3割であることが分かった。



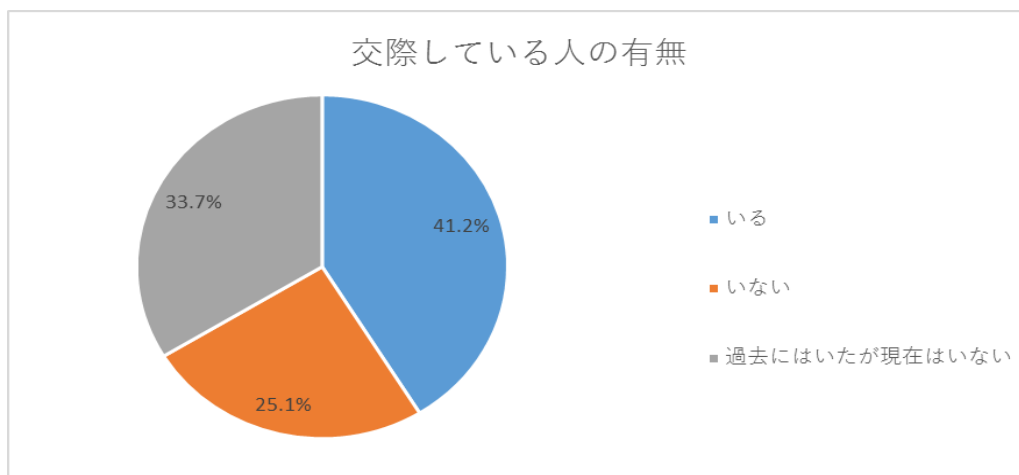
「LGBT（セクシャルマイノリティ）である」と回答した人に対して、施設利用に関して不便・不自由を感じるかと質問したところ、「ほとんどない」が43.3%、「あまりない」が25.2%で、「ときどきある」が17.6%、「よくある」が13.9%という結果になった。これらの施設利用に不便・不自由を感じていると答えた人も約3割であった。



「LGBT（セクシャルマイノリティ）である」と回答した人に対して保障制度に関して

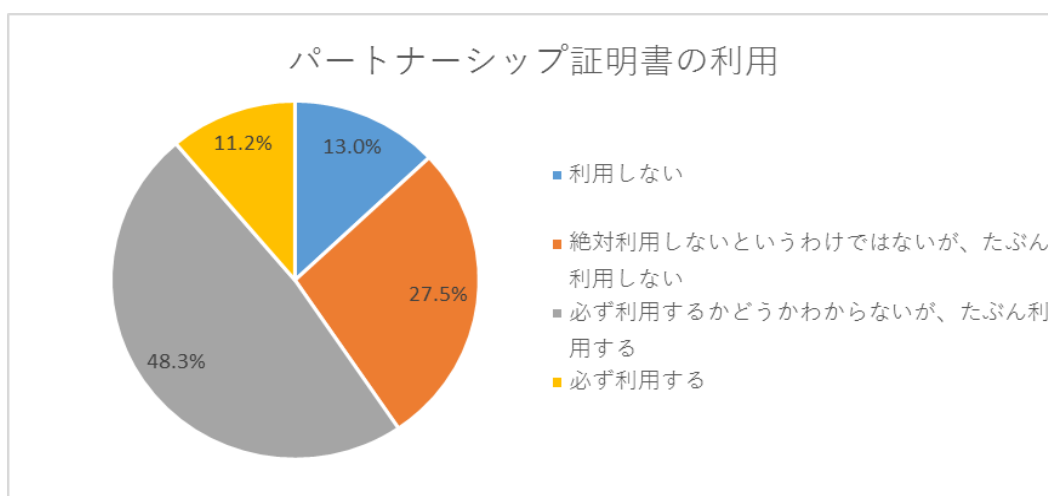
不便・不自由を感じるかと質問したところ、「ほとんどない」が 33.8%、「あまりない」が 26.4%で、「ときどきある」が 24.1%、「よくある」が 15.7%という結果になった。4割の人が不便・不自由を感じることがあると回答した。日常生活の中では、保障制度に関して不便・不自由を感じる人が一番多いことが分かった。

Q25 あなたは、現在お付き合いされている方はいらっしゃいますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



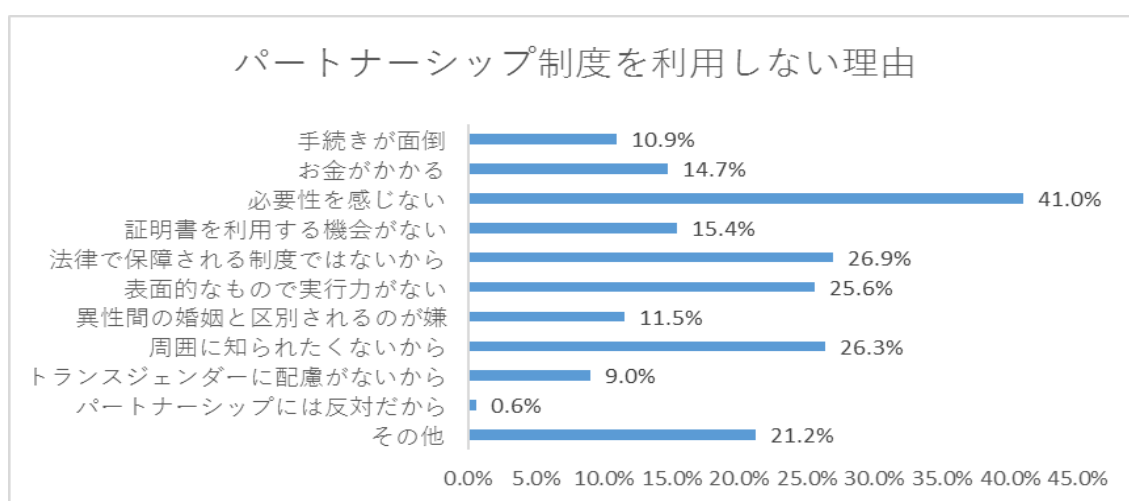
交際相手の有無については、「LGBTではない」と回答した人を除いて集計したところ、「いる」と答えた人が 41.2%、「いない」と答えた人が 25.1%、「過去にはいたが現在はいない」と答えた人が 33.7%という結果になった。交際経験がある人が全体の 7 割以上を占めていることが分かった。

Q26 あなたがお住まい自治体でも渋谷区や世田谷区のようなパートナーシップにかかわる証明書が発行されることになったら、利用したいと思いますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



自分の住んでいる自治体でパートナーシップに関わる証明書が発行されることになったら利用するかどうかについては、「利用しない」が13.0%、「たぶん利用しない」が27.5%で、「たぶん利用する」が48.3%、「利用する」が11.2%となった。利用すると答えた人が約6割となっており、利用すると考えている人が多いことが分かった。

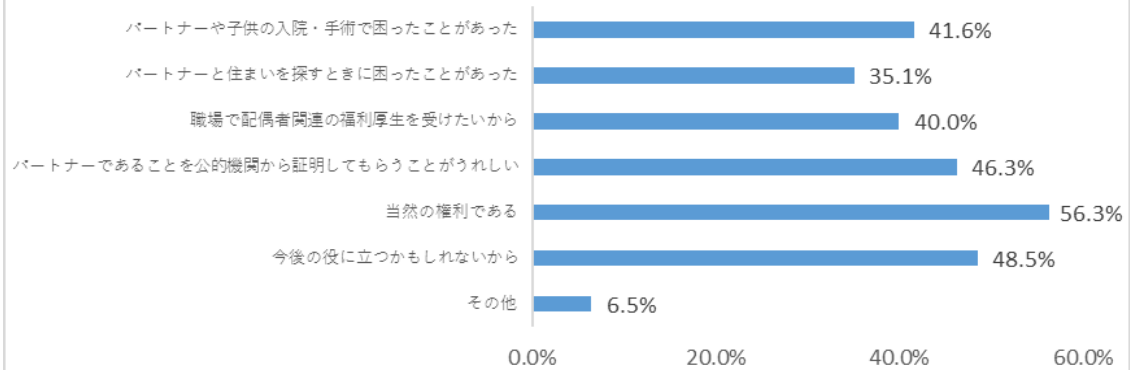
Q26SQ1 Q26で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



パートナーシップを利用しない理由について質問したところ、最も多かったのは、「必要性を感じない」で41.0%、次いで「法律で保障される制度ではないから」が26.9%、「周囲に知られたくないから」が26.3%、「表面的なもので実効力がない」が25.6%となった。回答数の多い理由で多くを占めるのは、保障制度に意味がない、必要性がないということであった。

Q26SQ2 Q26で「3. 必ず利用するかどうか分からないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

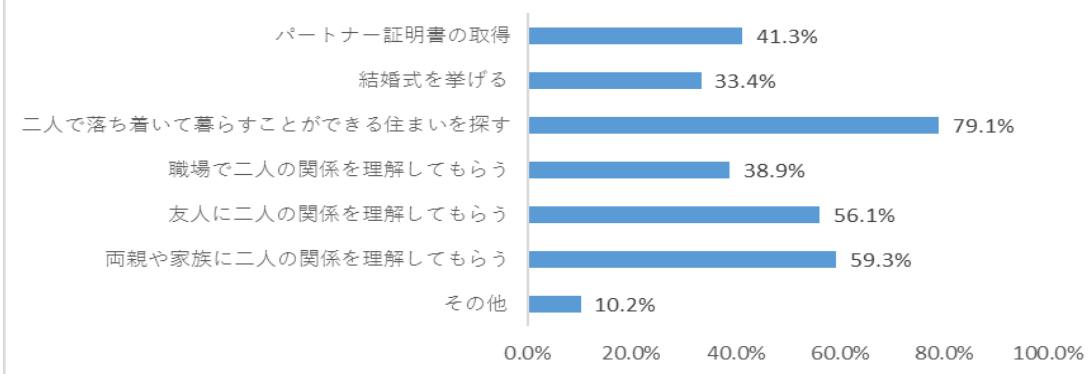
パートナーシップ制度を利用する理由



パートナーシップを利用する理由について質問したところ、最も多かったのは、「当然の権利である」で56.3%、次いで「今後の役に立つかもしれないから」が48.5%、「パートナーであることを公的機関から証明してもらいたいから」が46.3%となった。パートナーであることを証明できることが当たり前という考えと、喜びが利用する理由の多くであることが分かった。

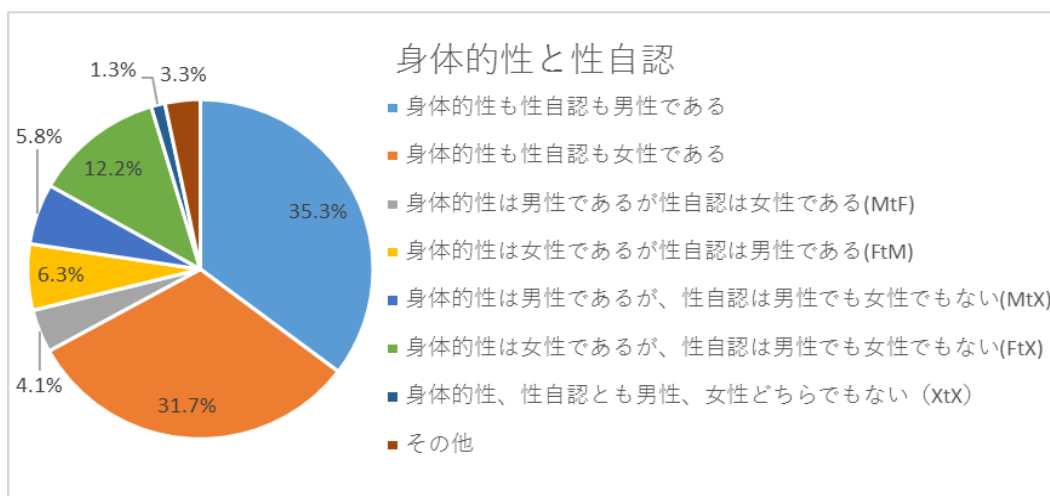
Q27 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

パートナーができた際に望むこと



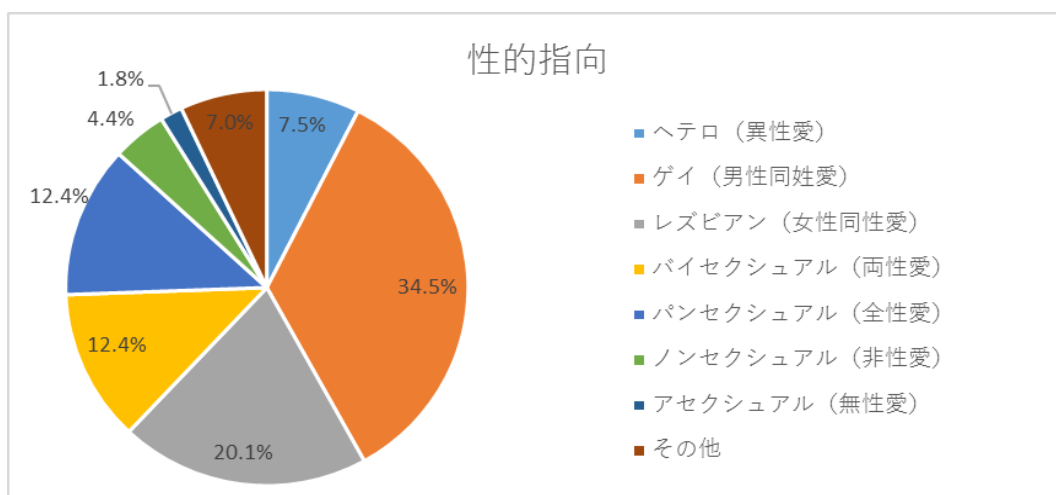
生涯をともに歩んでいこうと思うパートナーができた場合に望むことについては、最も多かったのは「二人で落ち着いて暮らすことのできるすまいを探す」が79.1%、次いで「両親や家族に二人の関係を理解してもらう」が59.3%、「友人に二人の関係を理解してもらう」が56.1%という結果になった。家族として同じ家に住むことや、両親や家族、友人といった周りの人への理解を望んでいる人が多いということが分かった。

Q28 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



身体的性と性自認について、割合が最も高かったのは「身体的にも性自認も男性である」が 35.3%であった。次いで、「身体的性も性自認も女性である」が 31.7%であった。このことから性別違和を持たない人が約 65%を占めている。MtF は 4.1%、FtM は 6.3%、MtX は 5.8%、FtX は 12.2%、XtX は 1.3%であったため、性別違和をもつ人たちの割合は全体の 3 割強であった。

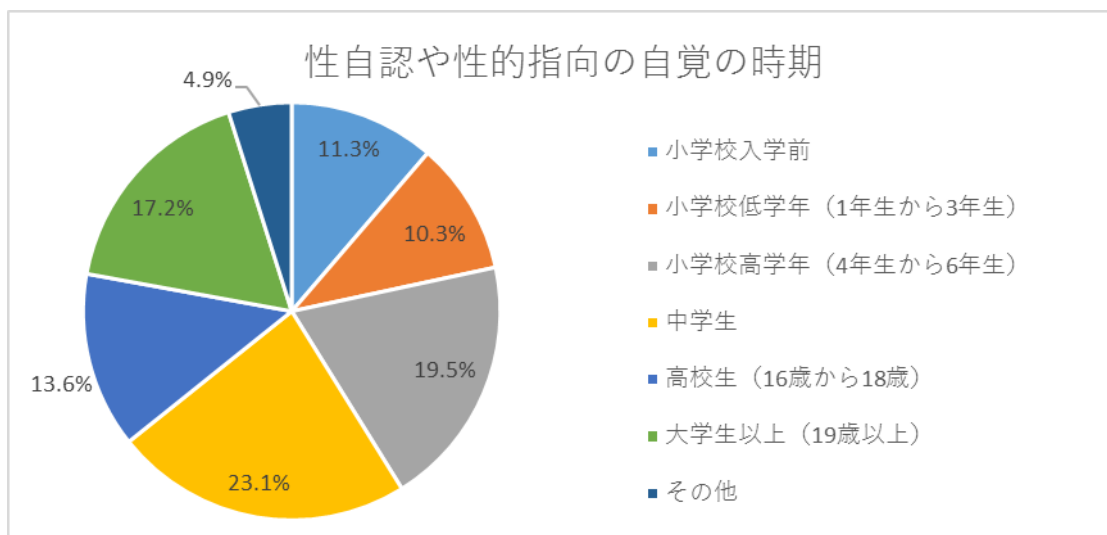
Q29 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



性的指向に関して、最も割合が高いのが、ゲイ (男性同性愛) の 34.5%であった。次いで、割合の高い順に「レズビアン (女性同性愛)」が 20.1%、「バイセクシュアル (両性愛)」と「パンセクシュアル (全性愛)」が 12.4%、ヘテロ (異性愛) が 7.5%、「ノンセクシュアル (非性愛)」が 4.4%、「アセクシュアル (無性愛)」が 1.8%であった。この問いはセクシ

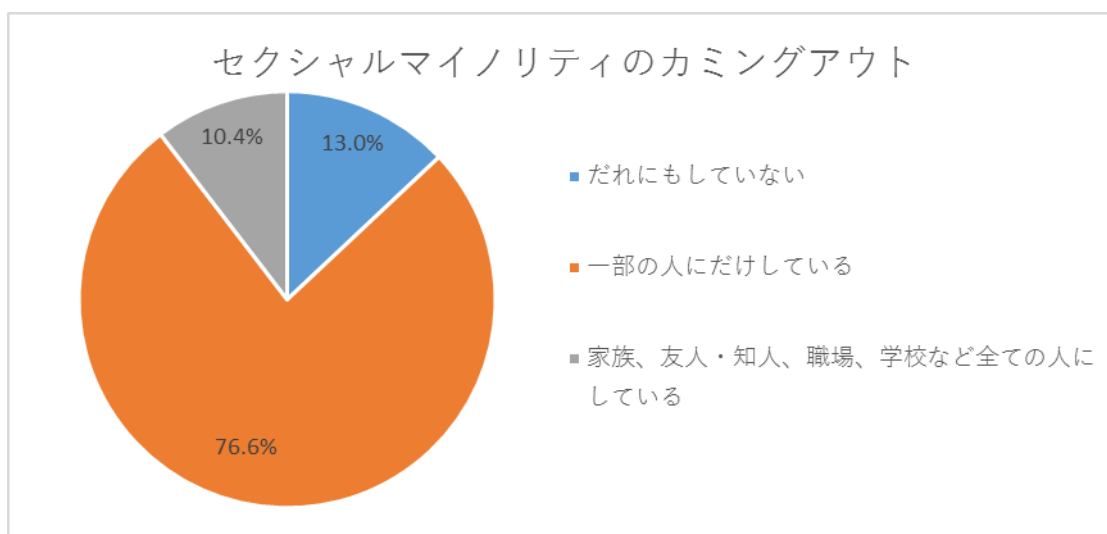
ヤルマイノリティに対する質問であるため、「ヘテロ（異性愛）」と回答している人は、性別違和をもつトランスジェンダーの方であると思われる。

Q30 あなたご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



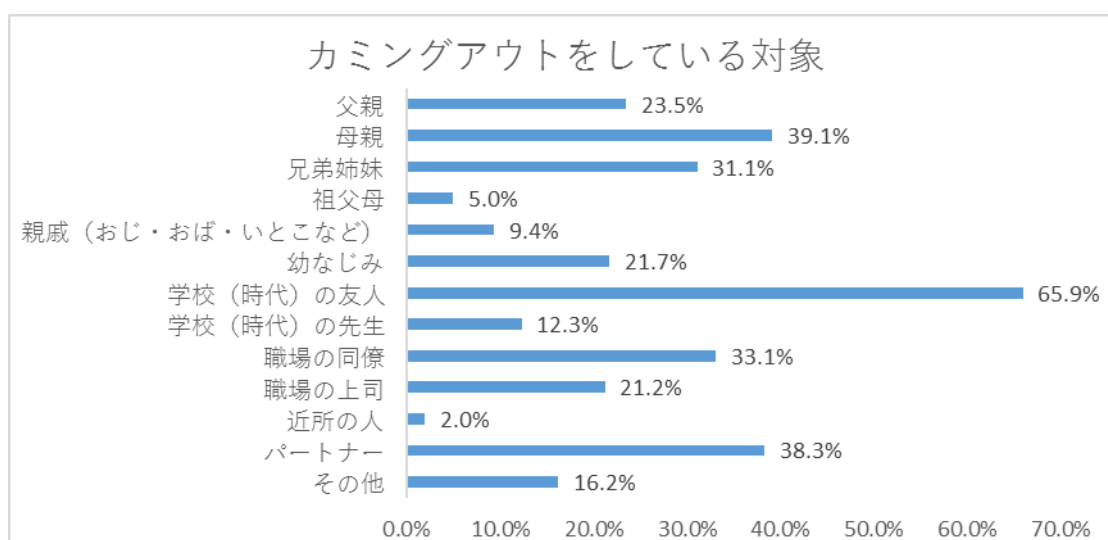
性自認や性的指向の自覚の時期として最も割合が高いのが「中学生」で23.1%であった。次いで、「小学校高学年（4年生から6年生）」が19.5%で、「大学生以上（19歳以上）」が17.2%という回答であった。また、小学校卒業までと早い時期に自覚をする人が約4割であるということが分かる。

Q31 あなたはご自身がLGBT（セクシャルマイノリティ）であることを周りの方にカムイングアウトしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



カミングアウトを「一部だけにしている」という割合が最も高く、76.6%であった。た、「家族、友人、知人、職場、学校など全ての人にしている」の割合は10.4%であり、「だれにもしていない」の割合は13.0%であった。9割近くの人が、少なくとも一部の人にはカミングアウトをしているということが分かる。

Q31SQ1 Q31で「2. 一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q31で、カミングアウトを「一部の人にだけしている」と回答した人に対して、具体的にカミングアウトをしている対象を尋ねた。割合が最も高かったのが「学校 (時代) の友人」で65.9%であった。次いで、「母親」が39.1%、「パートナー」が38.3%であった。家族であれば、「父親 (23.5%)」、「兄弟姉妹 (31.1%)」、「祖父母 (5.0%)」と母親にカミングアウトをする人の割合が多いことが分かる。

第2章 アンケート項目の「その他」の具体的記述内容と自由記述

Q1 今回の東京レインボープライド 2018 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

①情報媒体から

Youtube(4人)

掲示板

出演アーティストのホームページ

②人を通じて

パートナーに聞いて(2人)

③イベント内容で

自分が好きなアーティストがライブ出演する(4人)

TRPに興味があった

プライドパレードについて研究している

好きなお店が出店している

公園で開催するイベントに来る

以前好きなアーティストが出演した

Q2 東京レインボープライド (プライドパレード) への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

参加してみたいが、どうすれば良いか分からない

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、あてはまる番号全てに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

LGBT、prideの現状を知る、勉強するため(3人)

居場所だと感じられるから

性的少数者であることを肯定的に思うため

友人を増やしたい

友人に会いに

カッコいい人を見るため

Q3SQ1 Q3の中で一番主要な目的は何ですか。あてはまる番号を1つだけ（ ）内にご記入ください。

○「その他」の回答内容

雰囲気を楽しむ、雰囲気が心地よい(2人)

知り合いに会う(2人)

Prideの現状を知るため

どんな人がいるか知るため

カルチャーとして

イベントに参加する

友人が出店している

Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点で満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。

○「その他」の回答内容

a.ステージについて

人の多さへの配慮不足(2人)

何をやっているのか分からない、聞こえない(2人)

スタッフの不足

説明不足

開園時間を過ぎても始まらなかった

パレードとショーの時間が被っている

タイムテーブルを早めに公開してほしかった

政治絡みの主張をしている人がいる

メッセージ性が伝わらない

自己満足

面白くない

親近感がわからない

b.ブースについて

一人だと参加しづらい(2人)

会場、ブースが狭い(2人)

満足している

規模が小さい

男性向け、若年層向けが多い

どう支援しているのか分からない

ストレートの方は近付きづらい
アダルトな要素が排除されすぎ
出店者へ工夫が促せていない
エリア割が良くない
目的が理解しづらい
実行委員側がブースを企画してほしい

c.パレードについて

LGBT に関係の主張をしている人がいる(9人)
露出が多いなど、服装が相応しくない(3人)
通る場所や出発・到着の場所が良くない(2人)
フロートごとに温度差がある(2人)
服装の規制が厳しすぎる
主張が伝わらない
音楽が聞こえなかった
歩道と車道を行き来していて良くない
汚い
窮屈さを感じる
2丁目寄りのフロートが減ってしまった
デモ隊のように感じる
自己顕示欲の塊

d.飲食の屋台

値段が高い(4人)
飲食の出店が少ない(2人)
味に問題があった(2人)
ゴミ捨て場の場所が良くない
ソフトドリンクの販売が少ない
列が分かりづらい
レインボーモチーフの食べ物を期待した
vegan vegetarian に対応しているものが少ない

e.会場全体

一人だと参加しづらい(2人)
人の多さで電波が入りにくい(2人)
入りづらい

特になし

会場が狭い

気軽に飲食できる場所が欲しい

ゴミ捨て場の数、場所に問題がある

簡易トイレが流れない

LGBT 当事者が疎外感を受ける

Q5 プライドウィークの期間は、この会場でのプライドフェスティバルとパレードのほか、オープニングレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します(した)か。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

参加したかったが出来なかった(2人)

運動会(2人)

シンポジウム(2人)

観劇

ROOTS RAINBOU POP

トークショー

Q6 東京レインボープライドでは、プライドウィークの企画・運営の他、渋谷区のLGBTを対象としたコミュニティスペース(#渋谷にかける虹)の企画・運営なども行っています。「#渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。

○具体的な内容

交流会(3人)

福祉、老後、お金、司法に関して考える場所(3人)

講演活動(2人)

ボランティア参加できる企画の開催、告知

困りごとを受け付ける目安箱

性的な要素を除き、ストレートも知らずに利用できるLGBTカフェ

自治体への働きかけ

既存のLGBT団体への支援

ワークショップなどの学習する機会

健全な時間、場所でLGBT同士が知り合える催し

LGBTの人が集まれる祭

無料の訪問コンサルティング

SNS でイベント情報の発信

土日開催のイベント

テレビなどのメディアを使って LGBT 当事者のことを知ってもらう

当事者と当事者でない人の交流会

定期的に行われるイベント

ポリアモリーにフォーカスを当てた企画

LGBT の恋愛のあり方について

小中学校への訪問

大学の関連グループとの連携

アライに分かる活動

アライの交流、勉強会

ファッションショー、文化活動

当事者であることを示すアイテム

一緒に来た子どもが楽しめる遊具など

LGBT の観光客向けの専用案内所

友だちを作れる場所

50 代以上の性的少数者の人生について聴く

Q7SQ1 Q7で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

時間を取りづらい(3 人)

興味のある団体がない(2 人)

どう参加したら良いかわからない(2 人)

変なイデオロギー団体に関わる可能性があるから(2 人)

団体での活動の必要性を感じない

個人的に活動したい

活動している友人の相談に乗るなど間接的に関わっている

自分の性自認が不安定なため立ち位置が分からない

パートナーが参加していない当事者で参加しにくい

団体が分からない

LGBT に含まれないセクシュアリティなため躊躇する

催しに参加することがある程度

人と話して盛り上がるのが苦手なため

Q8SQ1 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

思春期では同性を好きになることもある

アナルセックスについての説明

海外の大学院で、セクシャリティとジェンダーについて専門的に

カトリック校で、宗教的に趣向としての同性愛は赦されるが同性婚は赦されない

クィア理論や家族社会学の授業の一環として

Q9SQ1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

講師として当事者が来た

Eラーニングによる教育

Q9SQ2 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

若い人から選ばれた人

不明

Q10SQ1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

段階的に学ぶ(2人)

セクシャルマイノリティに限らず人間の多様性(2人)

ディベート

LGBT団体やイベントに触れ合う

性の多様性

子どもを含めた親への教育

女らしさ、男らしさなどの固定観念を失くす授業

LGBT以外のセクシャルマイノリティについても扱うべきである

縦断的、継続的に行う

男女の性教育の見直し

SOGIとして共通の問題であることを知る

言動が差別的な意味があることを自覚する

Q11SQ1 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

社会に存在するマイノリティを知る

マイノリティの差別が時代遅れであること

職務に関わることでどのように対応するか

女らしさ、男らしさなどの固定観念を失くすようなもの

コンプラに則った説明

LGBT以外のセクシャルマイノリティについても扱う

LGBTがセクハラだと思ふことを伝える

Q11SQ2 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象はどのような形が良いと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

人事部から段階的に全体へ

希望者で良いが会社がD&Iの方向性であることは全社員が知るべき

必要な場合に行う

社員、派遣社員、アルバイトを含め業務に関わる人全て

社員全員に加え管理職は上級の研修を行う

Q15 渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。しかし、渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的なパートナーシップ制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的なパートナーシップ制度が必要だと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

異性間のものと同等のもの(2人)

異性間の婚姻制度をパートナーシップ制度にするべき

Q17 あなたは日頃化粧品を使用しますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

○「その他」の回答内容

全て使う(2人)

用事によっては使用するがプライベートでは使用しない

Q18 化粧品は主にどこで購入しますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

無印良品(2人)

免税店

バラエティショップ

スーパー

全て

Q18SQ1 化粧品を **Q18** で回答されたところで購入する理由についてあてはまる番号に3つまで○をつけてください。

○「その他」の回答内容

アクセスのしやすさ(4人)

実際に見たい(2人)

手軽さ

どこにでもある店舗だから

店員との会話

他の商品と比較できる

他の用事と一緒に出来る

スキンケアを行う都合で

他にどこで買えるのかわからない

Q18SQ2 化粧品を **Q18** で回答されたところで購入することで困ることについてあてはまる番号に3つまで○をつけてください。

○「その他」の回答内容

欲しいものがない

ルーチンで購入するだけで気分転換にならない

Q18SQ3 あなたが理想とする化粧品の購入先について、**Q18** の選択肢の中から当てはまる番号を 1つだけ () 内にお書き下さい。

○「その他」の回答内容

試せるならどこでも良い

こだわりがない

スーパー

無印良品

わからない

Q20 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

愛知県(6人)

大阪府(4人)

静岡県(4人)

四国(4人)

九州(4人)

東海

北陸

京都府

秋田県

Q21 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

シェアハウスの人(3人)

実家、家族(2人)

寮

友人

ネコ

Q22 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

介護士

役者

講師業・事務職兼学生

失業中

親の介護中

就活中

Q26SQ1 Q26で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

パートナーを得る可能性が低い、パートナーはいらない(4人)

同性愛者ではない(4人)
パートナーが反対している(2人)
結婚と同等の権利じゃない(2人)
カムアウトしていない(2人)
結婚に興味がない
アセクシャルである
同居が前提なため親に説明できない
デメリットの方が大きい

Q26SQ2 Q26で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容
利用しないと統計の数字に出ない(3人)
作った人が浮かばれない
嬉しいから
今後結婚できるようになったときに結婚記念日のような扱いを受けたい
性別を問わず自分が子どもを育てたいと願う人と子どもを育てたい
親にちゃんとした関係だと伝えたい

Q27 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方が出来た場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容
無い、ありえない、いない(4人)
法的に保障された結婚(3人)
病院での対応(2人)
保険の受取、相続などの法的な保障(2人)
パートナーに遺産が残るように遺言状を作る
結婚指輪の交換
子どもが負い目を感じない
自分の死後の対処の仕方を伝えたい
社内での緊急連絡先として登録する
干渉されないこと
異性カップル、夫婦と同様の制度を利用できる2
3人でも認められたい
子どもを育てる

病気、高齢になった時のための準備をしたい

2世帯で親と住む

Q28 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

身体的性は男性で性自認は男性と女性の間を揺れ動く

身体的性は男性で性自認は男性でも女性でもある

身体的性は男性で性自認は男性と無性の間

身体的性は女性で性自認は中性から女性を行き来する

身体的性は女性で性自認は女性寄りだが無性・中性になることもある

Q29 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

ヘテロセクシュアルだがパートナーが FtM

男性愛者

性自認は不安定だが性的指向はほぼ女性

決めていない

恋愛対象は概ね全性だが性的対象は女性寄り

クエスチョニング

ヘテロセクシュアルだが経験がないだけでバイセクシュアルかもしれない

アロマンティックセクシュアル

レズビアン、ロマンティックアセクシュアル

Q30 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

ここ数年(3人)

幼稚園の頃

分からない

最近

30歳前後の時

Q31SQ1 Q31で「2. 一部のみにだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

友人(6人)

ネットでの知り合い(4人)

当事者の友人(3人)

SNS(2人)

知人

飲み仲間

フェミニストの友人

必要のある相手のみ

元パートナー

カウンセリングの先生

親兄弟以外の人全て

ダンスの先生

合唱団の仲間

所属していた団体の後輩

(自由記述項目)

今回のイベントやこのアンケートに関しまして、ご意見・ご感想がありましたら、以下にご自由にお書きください。

●要望

○イベントについて

・LGBTではなく、せめてLGBTQなどと表記していただきたい。わたしは「LGBT」には属しませんので。

・今回のTRPのテーマの「LOVE&EQUALITY」は、主張が同性愛に寄りすぎているように感じました。トランスやアセクのような人もいるのですから、誰かを愛する人だけを取り上げるのではなく、(誰も愛さない人も含めて)すべての個人に愛を伝えられるイベントであればなお素晴らしいものになると思います。

・より多くの人に正しく知識を持ってもらう活動もできればお願いしたいです。その上でアンケートが役立てば幸いです。(2名)

・パレードについてや撮影ブースに関してもそうだが、ボランティアスタッフ・企業ブーススタッフ、一般参加者、ステージ出演者、他出演者(ドラァグクイーンなど)との間で非常に相違がみられるイベントだったと思う。

・LGBT および今回のイベントなどをよく理解していないスタッフが散見された。アフターパーティの受付スタッフは会場の方ではなくイベントのボランティアのようであったが、

どこまで理解されていたのだろうか？（ドラァグクイーン無料とあったが、クインでない女装の方とちゃんと区別できていたのか？）

- ・年々規模が大きくなり、認知されることも増えたと思われるが、本質を見失うことなく開催を続けていただきたい。

- ・政治家の参加については、個人的には構わないのですが、ツイッターでは政治家が LGBT を利用しているとか、LGBT 団体が右傾化、左傾化しているという書き込みがあるので、慎重な対応が必要なのでは。（2名）

- ・来年以降、代々木公園で開催できないとの事で心配してます。この際、東京にこだわらず近県での開催も検討してはいかがでしょうか。

- ・ロビイスト、政治団体の見境ない PR に対してもうすこし目を光らせて欲しいです。政治を切り離すのは無理ですし、安倍やめろという人種がまぎれても排除する理由はないですが、マイノリティ当事者たちの主張や、イベント趣旨からはずれた主張に対してもう少し敏感になってほしいと思いました。

- ・LGBT 以外のこと、もっと取り上げて。

- ・1人でもはじめての人でも気楽に参加しやすく、また交流出来るような機会を増やして頂きたいです。（2名）

- ・毎年イベントが開催されてうれしいです。ただ、日本には問題が多く、性的少数者という理由だけでなく、過労や貧困、民族差別等で悩む当事者がいると思います。過労、貧困、民族など、いろいろなことをイベントで取り上げてほしいです。

○ブースについて

- ・ブースが昨年より更に多く、1日では回りきれないほどでした。

- ・パレードのとき、プラカードなどを掲げて歩くのが大好きです。フェスタ会場のどこかで、プラカードなどのパレードに使えるメッセージグッズを販売したり、その場で作れるワークショップコーナーなどがあると楽しいと思います。

- ・レズビアン向けのブースをもっと増やしてほしいです。

- ・出店団体の並びがバラバラで、もう少し流れとしての通路を考えても良いかなと思った。入り口から一続きでほんとは1周できるのが理想。

- ・限定グッズ(スタバタンブラーなど)が無くなるのスピードが早すぎるので数を多くするか後日販売もして欲しい。（2名）

- ・各出展ブースが分かりにくかったですね。そしてブースにおいて、何を実施しているのかも分かりにくかったです。またラッシュ・ジャパンの出展があれば来年も参加して、スケジュール可能であればパレードにも参加してみたいです。

- ・ステージに近い通路が一番狭く通りにくかったのも、時間帯よっては人が多くなることを見越して通路を広くすることや、人が集まりにくい出店をその近くにした方が、相乗効果で

集まりやすい。またステージ近くの通路の混雑が減るのでは。

○運営について

・会場の狭さにより場所の把握や通路の確保ができないために、緊急事案が発生する恐れもあるため、動線をしっかりと設けるべきであると思う。(3名)

・運営中心部が LGBT を伝えることを重点に置きすぎて周囲への環境や介入に甘さが出ていると考える。(2名)

・2日目に行ったのだが後半は人が沢山いたせいか電波障害がおきて連絡が取れなかった。WIFI などがあるとよい。(3名)

・トイレトペーパーが足りない、ゴミの散乱が酷い、座れる場所や手洗場を増やして欲しい。(4名)

・一車線だけでは寂しい。片側斜線だけでもいいので車の通行止めにしてほしい。

・ブース出店料の値上げなどもしたようですので、運営、会場安全のためにお金を使っただけだと思います。仮設トイレは、10のうち、5は男性小用で、洋式便器が5は、少なすぎます。また、洗浄水タンクが空になるなど、使えなくなるトラブルが多かったと思います。常時ではなくても、巡回いただければ、使えないトイレがあることなどは、すぐに分かって対応できたのではないのでしょうか。

・聴覚障害の方と一緒に回ったのですが、VRなど動画類は全てにテロップを付けてほしいです。

・何回かインタビューのお願いと突然声をかけられたのですが 会場に来ていても会社や家族にオープンにしていない当事者の方はたくさんいるし、突然で嫌な思いをする人もいないかな??と思います。実際一緒に行った友人は声をかけられ急に黙っていました。インタビューの可能性のあるエリア等でわければと思います。

・浜崎あゆみの整理券って抽選じゃなかったんですか? 始めの方で整理券持っていない人があたりまえのように沢山入ってたけど、あれはどういう事ですか? ちゃんとホームページで説明してください!

○パレードについて

・パレードでは音を鳴らし、裸の人が踊り、政治的訴えをする人など、LGBTは普段から普通に生活している人であるため、偏った印象を与えないような工夫が必要であると思う。(2名)

・普段の格好でパレードするからこそ、マイノリティー以外の人にちゃんとメッセージが伝わるのだと思います。自分達と変わらないが、すぐ近くにマイノリティーの人はいるんだなと認識してもらうには全裸に近い姿ではあまりに方向性が違いすぎると思います。いくら

なんでも限度があると思います。

・先頭のフロート参加しましたが、音楽がなく盛り上がり欠けたのが残念でした。ぜひ来年は楽しくなる音楽をお願いします！

・フロート番号ごとに見やすい目印や立て看板があるといいと思いました。

・パレードの集合場所の表示方法がわかりづらく、別のフロートに並んでしまった（集合スペースが狭く混みあっていたことも原因）（2名）

●感想

○イベントについて

・非常に良いイベントでした。来年も楽しみにしています。

・これからも応援しています。

・ドラッグクィーンやおネエや筋肉モリモリの裸になりたがりのゲイなどが注目されるイベントだと思います。ぜひ、みんなの周りに住むふつうの人も LGBT がいるんだということを伝えてほしいと思います。

・普段、新宿二丁目など夜にしか会わない人たちが、昼間の太陽の下で会うことが新鮮でした。また、参加している方々の表情がとても明るく行って良かったし、来年も行きたいと思いました！

・TRP は是非続けていって下さい！今度はパレードで歩こうかと考えています。

・1人じゃないんだと改めて感じる事ができてとても良かった。自分も堂々と前を向いて生きていきたいと思う事ができた。また参加したい。

・最高でした。

・こういうイベントがあることで、自分が1人ではないという気持ちになりました。カミングアウトする勇気はないですが、頑張ってる人達がいることが心強いです。

・2回目の参加でしたが今回も、セクシュアリティに関わらずすべての人が受容され、一緒に笑いあうことができる、幸せに溢れた素晴らしい時間でした。

・政治発言など違和感ある主張が、催し全体の印象や品に良くない影響を与えてる感じがありました。

・政治利用されないように。

・楽しくてとてもまた行きたいって思いました。

・TRP 楽しかったです。こういう機会をもっと増やしてほしいです。普段自分がセクシュアリティを隠しながら生きてて、TRP に参加してからは、1人じゃないんだと気持ちが前向きになりました。不思議な空間でした。

・NHK E テレが連動したのはとても良かったと思います。それはセクシュアリティの話がいわゆるエロ話にならないからです。

・来年も参加したいと思います。ありがとうございました！

・浜崎あゆみのステージ、メッセージとても良かったです！またやって欲しいです！！今回のことでLGBTをしりました！とても良い活動だと思います！

・来年もがんばります(´・ω・`)ゞ

・イベント自体はとっても楽しかったです！また参加したい！

・素敵な学び、イベントをありがとうございました。来年も是非、参加したいです。

・地方に行くとは偏見や差別が大きいと聞きますので、お祭りとして楽しむ東京よりも、地方で開催の方が意義があり反響も大きいのではないかと思います。

・来年度も予定が空いていれば参加したいと思います。

・TwitterなどSNSを見てると、2丁目には興味なさそうな20代のコや地方の方が楽しく参加したようで嬉しくなりました。今後の継続運営を心より期待します。

・ひとりでよく参加してますが、それでも楽しめる場所です。こういう時でないと、本当の自分を出すことが出来ないの、この場所を設けてくださり感謝しております。ありがとうございました！

・グッズが売れ切れていて残念でした…。それ以外は、とても素敵でempowermentとして機能するイベントでした。ありがとうございました。

・LGBTBのイベントただ知り合いどうしのどんちゃん騒ぎという感じで、残念に思うことが多かった。

・去年は保険会社等の参加が急激に増えたり、それに伴いブースや会場がゴチャゴチャした印象を受けましたが、今年は少し整理されて改善された様に感じました。20年前に体験した光景や海外のイベントと同じものを求めるのは無理なのは分かっていますが、随分と参加しやすい雰囲気になってきたと、これが今年のイベント感想です。

・イベント目当ての人混みが嫌で、目立つイベントのない日に行きましたが、誰ともぶつからなかったのが印象的でした。また、いやな思いをした事は一度もありませんでした。また行こうという気になりました。

・東京レインボープライドに初めて参加しましたが、自分と同じ境遇にある人や支援してくれる方々が多数いることを実感して勇気が持てた。

・来年のイベントにも必ず参加したいと思います。2018年はパレードに参加できなかったの、来年こそ参加したいです。

・いつか結婚式ができますように！

○ブースについて

・わたし自身はFtMのパートナーを持つAllyのため、今年は例年よりさらにAllyに関するブースが増えてとても嬉しかったです♪♪当事者の人だけでなくAllyの人も参加しやすいブースが益々増えることを願います♪♪

・ストレートの方がもっと入って行きやすい雰囲気があってもいいかなあと思うブースも

ありました。

・今すだいあ大好きあゆちゃんが出て更に濃い2日間でした。ただ、あゆのshopを出していた女の人の態度が悪すぎて驚きました。LGBTの人達のためのイベントだったにも関わらずなんであんな態度の人間がいるのか悲しくなりました。

○運営について

・運営中心部がLGBTを伝えることを重点に置きすぎて周囲への環境や介入に甘さが出ていると考える。

・LGBT および今回のイベントなどをよく理解していないスタッフが散見された。アフターパーティの受付スタッフは会場の方ではなくイベントのボランティアのようであったが、どこまで理解されていたのだろうか？（ドラッグクイーン無料とあったが、クインでない女装の方とちゃんと区別できていたのか？）

・パレードの際毎年スタッフの方がとても親切で一生懸命に参加者の安全を守られているのを毎回感心しています。警察の方々もとても親切でした。

・今年初めてでしたが、また来年以降も期待しています。規模が大きくなればなるほど、統制も難しいとは思いますが、スペースの振り分けを工夫すればもっと皆さんが利用しやすくなると思います。これからも応援しています。

・末永い運営の為に運営側の次世代育成にも取り組んでください。

・公式グッズで、シリコンバンドがありますが毎年すぐ売り切れてしまうようなので、もう少し数を増やして欲しいです。

○パレードについて

・政治的なメッセージをプラカードに書かれている方がパレードに参加しており「潰れる！」「くたばれ！」といったネガティブな文字がちらほら見られたのが残念でした。

・パレードでのプラカードで日本の政治を批判するのもみられた。表現は自由だとはいえ、それはおかしいと思う。LGBTの者全てを一括りにされ悪い印象をとられた。

・パレードでのLGBTと関係無い政治批判などはやめて欲しいです。イベントの意味がありません!!

・パレードで立憲民主党による政治的な発言(安倍をゆるさないなど)があったのは残念でした。

・パレードにLGBTQに関係ないプラカードを掲げられたり、大して興味もってない政党がパフォーマンスでパレードに参加しているのは迷惑。

・LGBT当事者ではないので今まで関心があっても、イベントに行きづらかったのですが、パレードを通してどのような人もいけるのだと分かって良かったです。

- ・レズビアン比率がパレードにおいて、年々低く(目立たない)なっているのが気になる
- ・パレードで No37 に参加しました。GOGO が前の方に固まっていて列の真ん中ぐらいにいと GOGO の姿すら見えず、一緒に歩いている感じがしなかった。あと赤い傘がパレードの時邪魔。目に刺さりそうだった。

○LGBTについて

・聞かれたら Ally ですと言いますが自分の中にもグレーな部分があります。ただ「普通」に「結婚して子供もいる」ので、当事者の方達からは「グレーなんかでわかったような顔をしなくて欲しい」と思われるんじゃないかという遠慮？があります。当事者と Ally という線引きもくっきりとしたラインがあるのではなく「なだらか」なんだと実感を持って感じています。アンケートに書くとそのあたりは線引きせざるを得ないので、まあ、仕方ないんですけどもやもやしました。当事者の方たちのため、ではなく自分をも含めて、多様性を認める社会になって欲しいと切に思います。

・とても楽しく、そして自分のあり方について考えることができたイベントでした。今は一生結婚しないで親に内緒でパートナーと暮らそうかなと考えています。老後についても動けるうちに施設を探すなど、パートナー制度に頼らないでいけたらと考えています。セクマイであることについて、カミングアウトすると絶対に悪い目で見られることがわかっているので、マジョリティだのマイノリティだの括りがなくなるか、神がかりな力でセクマイへのくだらない偏見が突然洗脳されて無くなってしまわない限りは墓場まで持って行くことになると思います。ただ多いからという理由で偏見を持たれるのはホントに辛いというか、乗り越えて逆にその程度のレベルでしか考えられない愚か者と可哀想とすらも思えます。口が過ぎましたが、自分自身初めての参加でしたが、心から楽しめたイベントでした。来年もまた行きたいと思います。

・レインボーフラッグを掲げる、無料のレインボーバナー等、もっと気軽に「LGBT」が街や生活に取り入れられ、オリンピック開催に向け日本の受け身体制・見てみないフリや声をあげない姿勢が、変わって欲しいと思っています。

●アンケートについて

○改善点・要望

- ・複数回答できる質問で、ひとつしか回答が出来なかったです。(5人)
- ・アンケートが長い、多い(2人)
- ・「賛成か反対か」の質問に「あまりそう思わない」の回答はおかしいし、他にも回答がおかしいものが多い。
- ・アンケートが長いので、もう少し短時間でできるもののほうが集中できる。回答率もあが

と思う。

・アンケート、もう少しちゃんとしたシステムでやったほうがいいと思います。途中で全員 LGBT 設定の質問があるので。

・項目の作成があやふやなので、複数回答なのか単一回答なのかを明確にしたほうがいいかと。

・答えづらく、長かったです。LGBT である、にチェックを入れた人はもっと大変そう

・ウェブサイトが軽くなると助かります。

・web ページから当アンケートへの誘導がわかりにくく感じました。

・パレードと関係のない質問項目がやたらと多いので後半は未回答にしました。目的とやることを再度整理した方が良いと思います。対象カテゴリも様々な中で適切な質問か疑うものも多く、研究者ならばもっとしっかりしていただきたいと思います。

・このアンケートも LGTB に該当しない人には不親切な部分が多い。

・回答対象者が全員でない設問は、従前の回答に応じてグレーアウトするなどするとよりよい。特にスマートフォンで回答する際は、画面の往復が必要で疲れる。

・答えにくい質問や選択肢がいろいろとありました。

○感想

・アンケートが役立てば幸いです。

・複数回答できず、少しアンケート結果が変わってきてしまうのでは...と心配です。

・介護の質問について。私は元介護職員です。介護と大きなくくりで回答に迷いました。寝たきりの方のベッド→車椅子→浴槽などの移動時はやはり男性のほうが向いているし、オムツ交換や着替え等には女性の方が向いていると思います。女性高齢者は男性に身体介助をされることに精神的に抵抗がある方が多いです。男女共作業は出来るでしょうが、受ける側の気持ちを考えるなら女性の方が向いているかもしれません。

・アンケートわかりやすく作られていました。頑張ってください！

・ここに書くことではないかもしれませんが、書かせてください。自分は 5 月 6 日に当イベントに一人で参加しており、会場内を散策していたら、知らない男に「1人ですか？良ければ一緒に回りませんか」と声をかけられました。このイベント内で声をかけてきたということは同じ LGBT なのかもしれないと思い、LGBT 友達になれるかもしれないと勝手ながら軽い気持ちで同行してしまいました。自分は詳しく自己紹介はしなかったのですが、相手は急に多弁になり、恋愛対象や LGBT の何に該当するのか、を聞いてきました。まだ不審さには気付かなかったもののその質問には曖昧に返しました。そこから男はエスカレートしていき、執拗に手を触ってきたり連絡先を聞いてきたり「これから食事に行かない？」「今話に出てきた友達も女性？一緒に遊びたい」「僕女性が大好きなんですよ。エネルギーもらえる。今ももらっています」「マスク取ってよ。顔が見たい。一緒に写真撮ろう」などと気

味悪い言動が増えてきたところで「これはもしかしてナンパなのだろうか」とようやく気付きました。しまいには連絡先を交換しようと携帯を取り出したため、教えないとハッキリ断った瞬間男はどこかへ行ってしまいました。このアンケートでは自分は FtX と答えましたが、自分の身体が女であることを苦痛に感じながら生きているため、知らない人とはいえ女として見られナンパの対象にされていると分かった時は酷くショックを受けました。しばらく時間が経った今でも心が沈んでいます。この男と行動している時、さりげなく避難場所(イベントの本部?総合案内?や警備がいそうなテント)を探していたのですが、地図を見ても少し分かりづらく男を突き出すことが叶いませんでした。イベント自体はとても楽しく明るい気持ちで帰路につけると思っていた最中にこのような出来事があったため傷付いた状態で帰ることになってしまいました。今後このような事が他の人にも起こらないよう、もし可能であれば、こういったナンパ?行為に対する警告をあらかじめ強く出したり、地図上の総合案内場所を目立つように明記したりして下さったらとても助かります。自分でも想定外に傷付いていてふと思い浮かんでしまっただけで沈鬱な気持ちになる日々を送っています。誰かに相談したくても周囲にはカミングアウトしていないため自分が女であるという前提でナンパを受けたと話をすること自体が苦痛でずっと抱え込んでいます。自分の性認識に向き合い前向きになれたところだったこともあり、非常にショックです。イベントは本当に楽しく、来年も参加したいと思うほど素敵な時間・場所だったので、二度とこんな思いをしないよう少しでもこの声が届いて下さったら幸いです。長々と書き連ねてしまい申し訳ありません。レインボープライドを開催してくださり、本当にありがとうございました。来年もまた参加させてください。※件の男ですが、「リョウ」と名乗り、身長 167~170 くらい、細身で色黒、見た目は若いですが年齢は 35 とのこと(保険証を見せてきた)です。イベントの参加は初めてと言っていましたが、本当かは分かりません。

(参考資料) 調査票見本

東京レインボープライド 2018 来場者アンケート

お願い

本アンケートは、東京レインボープライドにご来場、ご参加くださった方々を対象として、本イベントのご感想、ご意見をお伺いし、来年度以降の開催にあたっての参考にさせていただくことを目的としています。「駒澤大学『人を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を受け、「東京レインボープライド 2018」の協力を得て、「駒澤大学文学部社会学科松信ひろみ研究室」が主体となって実施するものです。

無記名でご回答いただきましたアンケートは、統計的な処理により、個人の回答は特定できない数値の形（どの回答が何%といった形）で表されます。アンケートでは、みなさまの年齢や職業、セクシュアリティ、そして日ごろの活動や様々な事柄に関するお考えなど個人的なことも伺っておりますが、これらは、どのような方がどのようなご感想・ご意見をお持ちなのかといった傾向を分析するために必要なものです。本アンケートの趣旨をご理解の上、可能な限りご回答いただけますよう、お願い致します。

なお、本アンケートの結果は、秋以降の「東京レインボープライド 2018」の HP にて公開される予定です。また、昨年度の来場者アンケートにつきましては、現在 HP 上にて公開中です。

ご回答へのご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

2018. 5. 5 / 6

調査主体：駒澤大学文学部社会学科社会学専攻
松信ひろみ研究室（社会学演習 I）

【レインボープライドの会場でのイベントについて伺います】

Q1 今回の東京レインボープライド 2018 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | |
|------------------------|
| 1. 友人・知人の紹介 |
| 2. 自分がかかわっている団体が参加する |
| 3. ラジオ放送などマスコミの報道 |
| 4. HP などインターネットのサイトをみて |
| 5. Twitter をみて |
| 6. たまたま会場の近くを通りかかった |
| 7. 以前から来ている |
| 8. その他（具体的に： _____） |

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 1回目（初めて） | 4. 4回目 |
| 2. 2回目 | 5. 5回以上 |
| 3. 3回目 | 6. その他（ _____） |

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. パレードに参加するため | 2. パレードを見物するため |
| 3. ブースを出展するため | 4. ブースでの買い物や見学のため |
| 5. ステージに出演するため | 6. ステージを見るため |
| 7. ボランティアとして参加 | 8. たまたま通りかかった |
| 9. LGBT に関する様々な情報を得るため | 10. LGBT の友人を増やすため |
| 11. LGBT の仲間と一年に一度のお祭りを楽しむため | |
| 12. その他（具体的に： _____） | |

Q3SQ1 Q3 の中で一番主要な目的は何ですか。あてはまる番号を 1つだけ（ _____ ）内にご記入ください。（ _____ ）

Q4 会場でのイベントにはどの程度満足しましたか。a から d に関して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	満足して ない	やや満足 していない	まあ満足 している	満足して いる	体験・参加 していない
a.ステージ	1	2	3	4	5
b.ブース	1	2	3	4	5
c.パレード	1	2	3	4	5
d.飲食の屋台	1	2	3	4	5
e.会場全体	1	2	3	4	5

Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。

a.ステージについて

1. 開始時間、終了時間がよくわからない 2. 内容がわかりにくい 3. 内容に関心をもてない 4. 混雑していて良く見ることができない 5. その他（具体的に：)

b.ブースについて

1. どこに何があるのかわかりづらい 2. 何のブースなのかわかりづらい 3. 出展ブースの内容に偏りがある 4. 通路が狭くて混雑している 5. その他（具体的に：)

c.パレードについて

1. 集合場所がよくわからない 2. 開始時間がわからない 3. 受付の制限が厳しい（参加人数、締め切りが早いなど） 4. メッセージ性が弱い 5. その他（具体的に：)
--

d.飲食の屋台

1. どこに何があるのか場所がわかりにくい
2. 食べるスペースが狭い
3. 同じような内容の屋台が多い（種類が少ない）
4. 混雑しすぎていてなかなか買えない
5. その他（具体的に： _____)

e.会場全体

1. ブースや屋台など会場全体の配置がわかりにくい
2. トイレの場所がわかりにくい
3. トイレの数が少ない
4. ゴミ箱の場所がわかりにくい
5. ゴミ箱の数が少ない
6. 会場案内がわかりにくい
7. その他（具体的に： _____)

Q5 プライドウィークの期間は、この会場でのプライドフェスティバルとパレードのほか、オープニングレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パレードとフェスタ以外にそのような催しがあることは知らなかった。
2. パーティに参加した（する予定）。
3. ワークショップに参加した（する予定）
4. レクチャーに参加した（する予定）
5. 交流会に参加した（する予定）
6. オープニングレセプションに参加した
7. 前夜祭に参加した
8. クロージングパーティに参加する予定
9. いずれにも参加する予定はない
10. 未定
11. その他（具体的に： _____)

Q6 東京レインボープライドでは、プライドウィークの企画・運営の他、渋谷区のLGBT

を対象としたコミュニティスペース（#渋谷にかける虹）の企画・運営なども行っています。
「#渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。

()

【以下では、皆様の日常生活やお考えについてお伺いします】

Q7 あなたはLGBT関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT関連の団体に所属、もしくは活動に参加している（→Q8へ） |
| 2. LGBT関連の団体への所属、もしくは活動はしていない（→Q7SQ1へ） |

Q7SQ1 Q7で「2. LGBT関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. どのような団体や活動があるのかよくわからないから |
| 2. そうした団体や活動に興味がないから |
| 3. 関心はあるが、機会・きっかけがない |
| 4. まわりにカミングアウトしていないので、かかわることができないから |
| 5. LGBT当事者ではないので、活動にかかわる必要がないから |
| 6. LGBT当事者ではないので、かかわることに躊躇してしまうから |
| 7. その他（具体的に：) |

Q8 あなたは、これまでに学校でLGBTに関する授業を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. ある（→Q8SQ1へ） | 2. ない（→Q9へ） |
|----------------|-------------|

Q8SQ1 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉などについて簡単に触れた程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された
3. LGBT という言葉の説明にとどまらず、当事者を招いて話しを聞いた
4. その他（具体的に： _____）

Q8SQ2 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。その授業を受けたのはいつですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 小学生 | 2. 中学生 | 3. 高校生 | 4. 大学生 |
|--------|--------|--------|--------|

Q9 あなたは、これまでに職場で LGBT に関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. ある（→Q9SQ1へ） | 3. 非該当（学生もしくは職場経験がない） |
| 2. ない（→Q10へ） | |

Q9SQ1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉などについて簡単に触れた程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された
3. LGBT という言葉の説明にとどまらず、当事者を招いて話しを聞いた
4. その他（具体的に： _____）

Q9SQ2 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 社員全員 | 2. 人事部など一部の部署の社員のみ |
| 3. 管理職のみ | 4. 新入社員のみ |
| 5. 希望者のみ | |
| 6. その他（具体的に： _____） | |

Q10 あなたは、学校で LGBT に関する授業があったほうがよいと考えますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. あったほうがよい (→Q10SQ1 へ) 2. なくてよい (→Q11 へ) |
|--|

Q10SQ1 Q10 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れる程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する
3. LGBT という言葉の説明にとどまらず、当事者を招いて話しを聞く
4. その他 (具体的に: _____) |
|--|

Q10SQ2 Q10 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する時期はいつが良いと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 小学生 2. 中学生 3. 高校生 4. 大学生 |
|--|

Q11 あなたは、職場で LGBT に関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. あったほうがよい (→Q11SQ1 へ) 2. なくてよい (→Q12 へ) |
|--|

Q11SQ1 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れる程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する
3. LGBT という言葉の説明にとどまらず、当事者を招いて話しを聞く
4. その他 (具体的に: _____) |
|--|

Q11SQ2 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象はどのような形が良いと思いますか。あてはまる番号1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 社員全員 | 2. 人事部など一部の部署の社員のみ |
| 3. 管理職のみ | 4. 新入社員のみ |
| 5. 希望者のみ | |
| 6. その他（具体的に： | ） |

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社かどうかを考慮して購入しますか（例えば、同じ種類の複数の商品から1つを選ぶ際に、多少価格が高くとも、LGBT へ理解を示している企業の製品を買うなど）。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|------------|-------------|-----------|-----------|
| 1. 全く考慮しない | 2. あまり考慮しない | 3. やや考慮する | 4. 必ず考慮する |
|------------|-------------|-----------|-----------|

Q13 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職業をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|----------|-----------|
| 1. 全く考えない | 2. あまり考えない | 3. やや考える | 4. 大いに考える |
|-----------|------------|----------|-----------|

Q14 あなたは、新宿2丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用しますか？あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. ほとんど利用したことがない | 2. 年に1, 2回くらい |
| 3. 2, 3か月に1, 2回くらい | 4. 月に1, 2回くらい |
| 5. 週に1, 2回くらい | 6. 週に3, 4回くらい |
| 7. ほぼ毎日 | |

Q15 渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。しかし、渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的なパートナーシップ制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的なパートナーシップ制度が必要だと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的な婚姻制度
2. 異性間の法的婚姻制度とは異なる形での法的な保障をとまなうパートナーシップ制度
3. 渋谷区や世田谷区のように法的保障は伴わないけれど、パートナーであることを証明できる制度
4. 法的婚姻ではなく、異性カップル・同性カップルにこだわらない事実婚の形で法的な保障を受けられる制度
5. 同性カップルに対するパートナーシップ制度は必要ない
6. その他（具体的に： _____ ） |
|---|

Q16 男女のありかたについて一般的に言われている考え方がありますが、あなたは以下のような考え方について賛成ですか、反対ですか。a～fの考え方について、それぞれあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない
a.男は男らしく、女は女らしくあるべきだ	1	2	3	4
b.共働きであっても稼ぎ手としての役割は男性にある	1	2	3	4
c.育児や介護など人の世話をすることは、女性に向いている	1	2	3	4
d.ユニセックスなファッションよりも男（女）らしいファッションのほうが好ましい	1	2	3	4
e.既婚女性が働く際は、家事・育児に支障が出ないようにすべきである。	1	2	3	4
f.リーダーシップや決断力が必要な仕事は、男性に向いている	1	2	3	4

【以下では、あなたご自身のことやご家族のことについて伺います。集計・分析に必要な質問項目ですので、趣旨をご理解の上、できるだけお答えください】

Q17 あなたは現在おいくつですか。あなたの年齢を（ ）に数字で記入してください。

() 歳

Q18 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 渋谷区 |
| 2. 東京 23 区（渋谷区を除く） |
| 3. 東京都下（三鷹市、小平市、国立市、八王子市など都内市部及び町村） |
| 4. 東京近郊県（千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県） |
| 5. 北関東（群馬県、栃木県、福島県） |
| 6. 甲信越（山梨県、長野県、新潟県） |
| 7. その他（具体的に：) |

Q19 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 一人暮らし | 6. パートナー |
| 2. 自分の父親 | 7. 自分あるいはパートナーの子ども |
| 3. 自分の母親 | 8. パートナーの父親 |
| 4. 兄弟姉妹 | 9. パートナーの母親 |
| 5. 祖父母 | 10. その他（具体的に：) |

Q20 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. 正社員・正規職員 | 5. 非正規社員・職員（パート・アルバイト・派遣等） |
| 2. 会社経営者・会社役員 | 6. 学生 |
| 3. 自営業主（自由業を含む） | 7. 無職（主婦を含む） |
| 4. 家族従業者 | 8. その他（具体的に：) |

Q21 あなたのセクシュアリティについて伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT (セクシュアルマイノリティ) ではない (→ <u>アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。お気づきの点があれば、最後の自由記入欄にご記入下さい</u>) |
| 2. LGBT (セクシュアルマイノリティ) である (→Q22 へ) |
| 3. わからない (→Q22 へ) |

Q22 あなたは日常生活において、LGBT であるからということで不便、不自由を感じることはありますか？a から c についてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	1. ほとんどない	2. あまりない	3. ときどきある	4. よくある
a.職場(学校)での人間関係	1	2	3	4
b.近隣関係	1	2	3	4
c.施設利用(宿泊施設、娯楽施設、病院など)	1	2	3	4
d.様々な保障制度(職場の福利厚生なども含む)	1	2	3	4

Q23 あなたは、現在お付き合いされている方はいらっしゃいますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------|--------|-------------------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 過去にはいたが、現在はいない |
|-------|--------|-------------------|

Q24 あなたがお住まいの自治体でも渋谷区や世田谷区のようなパートナーシップにかかわる証明書が発行されることになったら、利用したいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 利用しない (→Q24SQ1 へ) |
| 2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない (→Q24SQ1 へ) |
| 3. 必ず利用するかどうかかわからないが、たぶん利用する (→Q24SQ2 へ) |
| 4. 必ず利用する (→Q24SQ2 へ) |

Q24SQ1 Q24で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 証明書の取得手続きが面倒だから
2. 証明書発行にお金がかかるから
3. 必要性を感じないから
4. 証明書を利用する機会があまりないから
5. 法律によって保障される制度ではないから
6. 表面的なもので実効力がないから
7. 異性間のパートナーシップと区別されるのが嫌だから
8. 周囲に知られたくないから
9. トランスジェンダーに配慮がないから
10. パートナーシップには反対だから
11. その他（具体的に： _____)

Q24SQ2 Q24で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パートナーや子どもの入院・手術など病院関連のことで、これまでに困ったことがあったから（これからあるかもしれないから）
2. パートナーと住まいを探すときに、これまでに困ったことがあったから（これからあるかもしれないから）
3. 職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから
4. パートナーであることを公的機関から証明してもらうこと自体がうれしいから
5. 当然の権利だと思うから
6. 今後役に立つかもしれないから
7. その他（具体的に： _____)

Q25 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パートナー証明書の取得
2. 結婚式を挙げる
3. 二人で落ち着いて暮らすことのできるすまいを探す
4. 職場で二人の関係を理解してもらう
5. 友人に二人の関係を理解してもらう
6. 両親や家族に二人の関係を理解してもらう
7. その他（具体的に： _____）

Q26 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 身体的性も性自認も男性である
2. 身体的性も性自認も女性である
3. 身体的性は男性だが、性自認は女性である (MtF)
4. 身体的性は女性だが、性自認は男性である (FtM)
5. 身体的性は男性だが、性自認は男性でも女性でもない (MtX)
6. 身体的性は女性だが、性自認が女性でも男性でもない (FtX)
7. 身体的性、性自認とも男性、女性のどちらでもない (XtX)
8. その他（具体的に： _____）

Q27 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ヘテロ（異性愛）
2. ゲイ（男性同性愛）
3. レズビアン（女性同性愛）
4. バイセクシュアル（両性愛）
5. パンセクシュアル（全性愛：性別にこだわらず、愛情と性的欲求を感じる）
6. ノンセクシュアル（非性愛：愛情は感じるが、性的欲求を感じない）
7. アセクシュアル（無性愛：愛情も性的欲求も感じない）
8. その他（具体的に： _____）

Q28 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あ

今回のイベントやこのアンケートに関しまして、ご意見・ご感想がありましたら、以下にご自由にお書きください。

あとがき（調査を終えて）

「東京レインボープライド 2018」への来場者は、初日 5 月 5 日は約 6 万人、二日目は約 8 万人、パレードは 7000 人の参加があり、述べ 152000 人と昨年度の 10 万人を遥かに超える盛況ぶりであった。一昨年は 7 万人、その前年度は 5 万人であったことを考えると、このイベントの浸透ぶりが伺われる（「東京レインボープライド 2018」HP より）。LGBT 当事者でない方々もかなり参加しており、また、アンケート結果からは、「初めて」、「2 回目」という来場者が多く、初めての来場者に加えて、昨年来場された方がリピーターとして来場され、さらに都内だけではなく、東京近郊県からの来場者が増えた結果であることが読み取れる。

本調査の中心的な目的は、「東京レインボープライド」の催しに対する感想、意見を伺い、翌年度の改善点の参考にしていただくということであるが、多様な LGBT の方々に「共通してみられる経験・意識」を見出そうとする学術的な関心も含んでいる。

ここ数年で、LGBT 当事者の方を対象とした量的調査（アンケート調査）もみられるようになってきたが、これまでは LGBT の方々を対象とした調査といえば、インタビューなどの質的調査法に基づく、各個人ごとの事例調査が主体であった。つまり、「多様な LGBT の方々」の「多様な個別の経験・意識」を明らかにするという調査である。しかし、今回の調査は、調査票に基づく量的調査であり、多様な LGBT の方々の「個別の経験・意識」ではなく、多様な LGBT の方々に「共通してみられる経験・意識」を見出すことが可能である。本調査は、来場者を対象としたとはいえ、調査に協力してくださった方は、約 15 万人の来場者の極一部である。さらに言えば、今回の催しに来場した LGBT の方々を対象としている調査であるため、必ずしも「日本の」LGBT の方々を代表しているとはいえない。とはいえ、本調査により、「多様な LGBT の方々」が共通して抱えている問題、意識を発見する糸口を見出すことができたといえるのではないだろうか。また、来場者には LGBT 当事者でない方も含まれているため、意識の比較も行うことができた。冒頭の調査概要では、昨年一昨年と同じ調査項目に関しては、可能な限り以前の数値との比較を言及している。本調査結果が、来年度のレインボープライドのイベントへの参考となるばかりでなく、LGBT の方々の実態を少しでも明らかにすることができるものであることを期待している。

このたびの調査では、当日配布した紙媒体の調査票に加えて、web 調査も実施した。しかし、これらの調査票の連動がうまくいかず、回答者の方々には多大なご迷惑をおかけしてしまったことを、心よりお詫びしたい。

最後に、本調査の実施を快諾してくださった「東京レインボープライド 2017」の共同代表者である山縣真矢さんと杉山文野さん、そして、何よりも本調査にご回答くださった来場者の方々に感謝し、本報告書の結びとする。

2019 年 2 月吉日

駒澤大学文学部社会学科 松信ひろみ

「東京レインボープライド 2017 来場者アンケート調査」報告書

2019年2月27日発行

発行 駒澤大学文学部社会学科社会学専攻

松信ひろみ研究室（社会学演習Ⅰ）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

第一研究館 1515

電話 03 (3418) 9298 (研究室直通)

Email: mhiromi@komazawa-u.ac.jp